女學雜誌

第二百五號目次

社說 改革者となる乎、隨從者となる乎

論說 ペルッ氏の存娼論を駁し且つ廢娼論に付きて一言す○日本に於ける婦人問題

批評 廢娼論壇第一先登、上毛青年の初陣○學校衛生論○星界想遊說○新長崎みやげ○日本及基督教○通俗齒の養生法○新著百種第八號を讀みて○遊女學校○金融論

雜錄 閨秀小說家の答○青年の力○廢娼論につきてよめる長歌（田邊龍子）○小說病補遺○小兒に藥劑を飲ますと○遺傳の話し○きよめぬ庭

小說 野邊遊ひ（第二）○浮世の波間（禮）

寄書 春日の感○黑川眞賴氏の遊女の話の筆記を讀む○小品漫筆○國民悉皆醫者となれ○舌の御馳走○仇人の口善惡なきを嘆ちて○交詢

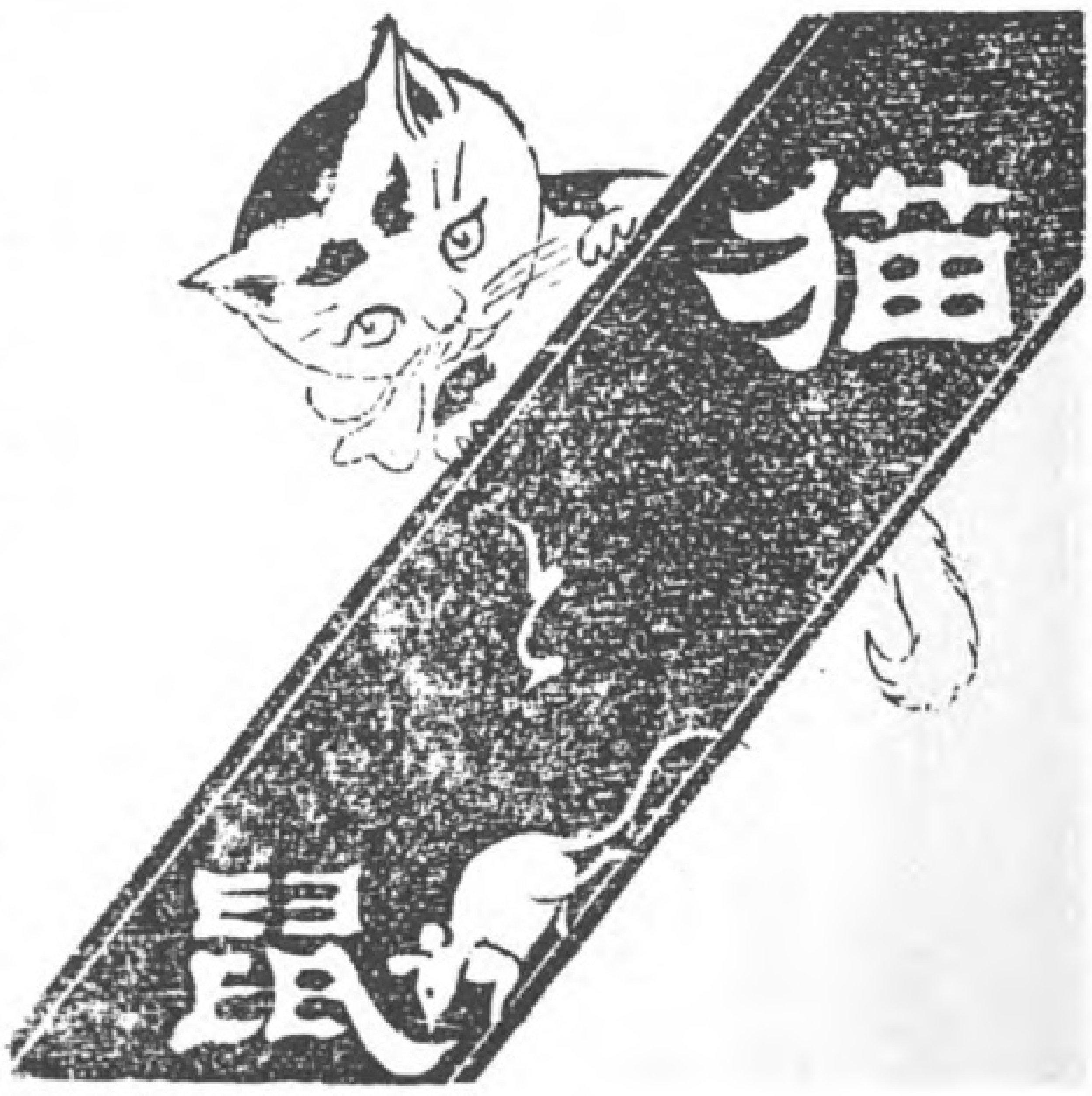
開書 女學雜誌に與ふるの書

時事 勝海舟翁○福澤諭吉君○文部省中其人なし○不德教師○學校と教會○高等師範學校○序文、目錄、小引○日曜日安息の事○廢娼記事

女報 赤十字社○婦人大演說○普溜女學校○婦人獎勵會○妙喜尼の言行○婦人衛生會○アッケルマン孃

All are but parts of one stupendous whole, whose body nature is, and God the soul.—Pope.

此書は子供が見て面白く、女が見て爲になり、學者が見ても感心するゝ、珍らしき訓蒙繪双紙なり、趣向新らしく彩色目ざましく、特に文章は歌の如く誰にも讀めて味ひ無限なり、實に子供



にも、細君にも、學者にも珍重さるべき書物なれば、御褒美、遣ひ物、などに最もよし。一冊十錢、郵稅二錢なれど女學雜誌の讀者に限りて一冊九錢にて送り參らす。

三月廿二日發兌　第二百五號　一冊定價六錢

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 205. 22ND MARCH, 1890.

EDITORIAL:—To become a Reformer, or to remain a follower of another?

LEADING ARTICLES:—Criticism on Dr. Bealt's Lecture for the Preservation of Prostitution, and one word on the Abolition of Prostitution. Dr. C.S. Eby. Women's Question in Japan.

CRITICAL NOTES:—"The First Battle of Jō-mō Young Men's Association." "The School Hygiene." "Imaginary Journey in Worlds of Stars." Nagasaki Miyage. Japan and Christianity. Popular Hygiene of the teeth. Upon reading the *Shinchō Hyakushu*, No. 8. Notes on Some Items of Last week's Journals.

MISCELLANEOUS:—Reply from Prominent Novelists. Power of Young Men. A Poem on the Abolition of Prostitution (Miss Tatsu Tanabe). Novel Sickness. About administering Medicine to Infants. Story on Heredity. The Humorous.

OPEN LETTERS.

NOTES AND NEWS.

CONCERNING WOMEN.

第二百四號目次

社說　政治上の道德

論說　日本に於ける婦人同胞○聖經女權

批評　小說群芳第二―評(露峯子、漁山人)○日本評論○染色雜誌

雜錄　アツケルマン孃の演說○おみなへし○小說病○懸賞答文○和歌の浦波(池袋清風)○男女生徒の神經衰弱○赤兒の寢室○安眠の時間○女流小說家の答書○きよめぬ庭

小說　浮世の波間

寄書　日本新聞記者に望む(白川漁夫)○寒さ○孤島の四人

開書　○有樂堂主人にまいらす○交詢

時事　讀賣新聞の應答○日本新聞に望む○少年矯風軍○閨秀二女史逝く○女流の演說○廢娼記事

女報　行啓○松方伯の家庭教育○赤十字社病院○女子演說○產婆○女子獨立女學校○婦人矯風會風俗部○十三の產婆○東京女子聖書學館

サマリタン會規則

第一條　本會ノ目的ハ信者未信者ニ拘ハラス貧窶ニシテ疾病ニ罹レルモノヲ救療シ且未信者ニハ福音ヲ傳ヘテ其靈魂ノ救ハレンコトヲ望ムニ在リ故ニ本會ニハ救療所若干ヲ設ク

第二條　信者未信者ノ別ナク毎月金拾錢以上若クハ一時金五圓以上ヲ寄附スル者ハ會員トシ又臨時ニ金五圓以下若クハ物品ヲ寄附スル者ハ贊成員トス而シテ會員ニハ患者ヲ救療所ニ紹介スルノ權アリ

但シ會員ニハ會員證ヲ贈附シ贊成員ニハ臨時ニ謝狀ヲ呈スルモノトス

第三條　役員ハ會長一名及救療所毎ニ理事委員治療委員各若干名トス

但シ役員ハ信者ニ限リ且ツ總テ無給トス

第四條　會員ハ便宜ニ依リ各救療所ニ區分シ其寄附金ノ取纏等ハ理事委員之ヲ處理ス

第五條　救療スヘキ患者員數ハ收入金高ニ應シテ豫定シ紹介ノ順序ニ隨テ救療スヘシ其診察時間等ハ救療所ニ掲示スヘシ

但シ救療所ノ都合ニ依テハ看護婦ヲ置キ患者ヲ宿泊セシムルコトアルヘシ

第六條　救療所ニ於テハ六ヶ月毎ニ其功程ヲ會員ニ報告スヘシ

第七條　本則第二條中會員ノ寄附金額ハ自今入會ノモノヽミニ適用ス

明治二十三年二月

○救療所ヲ本郷區湯島切通坂町三十番地ニ設置候事

○治療委員理事委員ノ姓名ハ近日別紙ヲ以テ廣告ス

○會員タランﾄスル諸兄姉ハ御便宜ニヨリ左ノ人名ノ内ヘ御通知アレ

本郷區森川町壹番地大内方　遠藤鉄太郎

同切通坂町卅番地藥舖　林利知

下谷區徒士町三丁目六拾一番地　高田耕安

下谷一致敎會ニテ　森田豊

女學雜誌　第二百五號
明治二十三年三月廿二日發兌

社説

改革者となる乎
隨從者となる乎

近來學者活眼家など云へる文字漸やく現はれ來り、自から之を許して揚々得意あるものあり。吾人其誇る所ろを聞けば、彼の學者なるものは冷々として云く、天則嚴明にして人之を苟くもすると能はず社會の發達は總じて進化の方則に隨ふが故を以て俗人何如に騷々とするも得て容易すく進退せしむると能はずと云ふなり、而して活眼家は頗ぶる活機を知ると以爲ひ昂々乎として大勢を論じて云ふ、天下の事皆な大勢に由りて決す、大勢未だ到らずんば人何事をも爲すと能はず大勢未だ到らずんば狂奔喚呼するも無益のみと。嗚呼斯如き人種の漸やく社會に增殖せんとするは社會の漸やく昏睡せんとするの兆なり、今や正に大曉聲を要す。

夫れ、天則と云ひ、大勢と云ふこと、其理極めて佳し、世上の事一點一劃も天の則りに違ふとなく人の髪の毛一すじだに理法に由らで墮るとなし、天則を重んずるは當然の事なり、亦た大勢の勢ほひに乘ずるは賢こき者と云ふべし、若し一つの勢力にして力ありとせば大勢の勢力は更に大ひなる力ならずんばあらず、之を利用せんとするは亦た當然の事あり。然りと云へども、天則を重んずる者は當に天則中の最高なるものを彌よ重んずべし、大勢を重んずる者は當に大勢中の最大あるものを彌よ重んずべし、天則と大勢とを重んずる者は天則の大勢を重んずると更らにいよ〳〵切あらずんばある可らず。　吾人今の學者及び活眼家が謂ふ所ろの言を聞けば、彼等が天則なるものは有形卑近の事に關はるの天則のみ未だ嘗て其高遠至善なるものに考へ及ぼす能はず、亦た其大勢なるものは僅々三五の年毎に流轉する暫假眇忽の流勢のみ未だ嘗て其の至强至大なるものに考へ至ると能はず、而して彼等揚々として得意、自から高く搆へて一世を睥睨し、身を螻蟻に比して穴中に竄れ、驕然天を仰いで暴言す、何んぞ其の惘れなる哉。

夫れ人類の猿猴に似たるとは天則能く之を證す、社會の發達の生理に類するとは天則亦能く之を證す、然れども人類の更に天使に似ると社會發達の更に靈理に類するとに至りては天則の之を證すると更に彌よ嚴明なるにあらずや、而して此等

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

天則の進向を察するに其大勢は必らずや徳善に向ふ、古往今來正しからざるの事業にして能く永續したるとなし、正しからざるの邦家にして能く繁榮したるとあし、人や一時の榮華に千万の富を集るとも其徳もし義ならずば其財春宵の夢の如くに消えん、家や國や權力や若し苟くも正しきの上に基ひせずんば斷えて久しく生存らふるとある可らず、日出でゝ熱し浮草枯る、花の如く暫らくにして過ぎ行かずと云ふとなし。嗚呼食ふにも衣るにも天則あり然れども其天則によりて靈の天則を消すと能わず、一治一亂は世の大勢也然れ共亂れんとするの大勢に臨みて治安の成大勢を忘るゝとある可らず、悲しき哉彼の局促の徒、百里を見て万里を見ず、一世を見て百世を見ず。世人悉とく東に走る時は東走の理あり東走の大勢あり、世人悉とく西に走る時は西走の理あり西走の大勢あり、此理此大勢に伴隨して同じく西走東走せんか之を隨從者と云ふ、時あつてか毅然之に逆らひ岳濤に向つて逆進す之を改革者と云ふ、改革家となるか隨從者となるか、其の何れかに歸するによりて大いに結果を異にす。

世の需に應ずるときは自から價高し、世の流れに隨ふときは必らずや安全あり、世の風潮に伴ふときは極めて名聲あり、若し人生の成功なるものは一世に容れられ富貴利達に得意し目下の輿望に適ふとにありとせば、即はち上記したるが如くに身を處すべし、當世の先生なるもの常に如此く教ゆ。

然れども、世の迷ひを醒まし、世人を曳導し、俗習舊慣を改革せんとするものは、彼れすでに世に逆らふが故に世必らず之に敵するとあるべし、彼もし甚しく世に逆らはゞ世は之を殺すとあるべし、彼もし穩かに世に逆らはゞ世は之を顧みずして放擲すべし、其の何れにもせよ彼は決して世に歡迎せらるゝものにあらず、歡迎せられざるが故に改革者たり、改革者たるが故に世に惡まるゝあり、世に惡まるゝが故に彼は決して富貴利達するとなし、苟くも改革者たるとを決心するか之と同時に困苦難澁に沒落するとを決心すべし、すでに改革者たらんとを希ひて而して安逸平安に休せんとを望まば「如此き人は貳心にして其行ふ所ろの事すべて定準なし、如此き人は天より何物をも受ると思ふ勿れ」。

夫れ改革者は天則を破るものにあらず、必らずしも大勢に逆らふものにあらず、蓋し彼は卑近有形の天則にのみ隨はざるとあり亦た暫假眇忽の大勢に伴はざるとあり、然れども彼は更に大ひなる天則に隨つて更に大ひある大勢の進向に伴ふも

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

のなり、彼が面ては高山の巓の如し其の旭日に照さるゝとき、は下天谷中尙ほ暗黑界に眠れり、然れども久しふして滿地皆な同一の光明を受くべし、彼が言ばは預言者の言の如し其言ふ所ろ甚はだ遠ざかるが如くあれども遂に必らずや成就し天下皆な其言を普通とするの日至らん、其日の到る迄には長日月を要す然れども必らず到る、たゞ之を速かに來らするは改革者の續々として出づるにあり、其日の來る遠しとして之に勉むるものなくんば其來ることいよ／＼遠し、國家善進の遲速は改革者の多少强弱に關す、滔々たる俗人は隨從者のみ。

彼の學者活眼家なるものは、一個人の力果して何如なる事を爲し得んと云ふ、然れども此は未だ歷史と心理學とを知らざるの徒なり。

夫れ國は人より成る、故に一國の大法は一個人の心理に同じきもの多し、故に若し一個人の心を動かし得る者ありとせば何によりて一國民の心を動かし得ざることあらん、況んや人の善に向ふは其の天性あり、其の善に向わんとするの勢力は何物よりも强し、此の至性至大に隨つて人を動かすの事至つて大ひなりとせば、亦た之に隨つて一國を動かすこと何んすれば小さしとせん、請ふ歷史を見よ。

歷史は特に有形の事を明記す、何如に歷史は有形界の大變動を記載するぞ、コロムバスは新世界を發見したるに非ずや、ワットは蒸氣力を發見したるにあらずや、フランクリンは電氣を發見したるにあらずや、此等個々の一人が發見したるの事何等快大の大影響を及ぼしたるか、又ワシントンの自由に於ける、アンゼロの彫刻に於ける、アリストートルの哲學に於ける、ダンテ、チウサーの詩に於ける、シエキスピアの院本に於ける、カルビンの神學に於ける、孔子、釋迦、ソクラット、ゾロアスターの道德に於る、抑も幾干の大變動を起せるかを見よ、而して此等有名の改革者は更に幾多の無名改革者を代表する者也、嗚呼改革者の事業何すれぞ無効あらん。

改革と云へば徒らに事を起すに似たり、然れども眞の改革は尤も進步したる進步の案內なり、其性至つて世を騷がすに似たり然れども其世を動かすは世をして早く太平和に達せしめんとするが爲め也。カーライル曰く英雄は戰を好むものにあらず戰つて治安を維持せんとする也、クリスト曰く地に泰平を出さん爲に我來れりと意ふ勿れ泰平を出さんとに非ず刃を出さん爲に來れり。改革者は到る所ろに世を騷がすもの也、而して其世を騷がすは世を鎭めんが爲め也。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

彼の學者活眼家は譬へば投機商の如く若くは狐の如し、改革者世に絶叫するときは彼等云く世は未だ左樣には進まず、天則ある也、大勢到らざる也と、而して改革者の涙と血と骨とに由りて世既に大動し來らんとすれば、彼等は忽まち之を察して演說して曰く、如此く改革すべし如此く改革すべしと、而して世は果して其如くなれり、於此乎其功は此の學者及び活眼家の手に歸して昔日の眞改革家は忘却せらるゝ也、眞改革家固より之を怨みとせじ故に吾人も亦た之を歎かず、然れども彼の投機商の如く狐の如きものが世を瞞着するに至つては嫌惡の情禁ずること難し、只だ彼等を罵るに非ず、有爲の少年をして決して彼の如くあらしめじと祈る耳。

少年よ、若し如此く狐となりて鳥の餌を盜み、勞せずして甘く功を收るを以て人世の成功とせば、則はち此流の學者及び活眼家あるものを師匠とすべし、彼等は基督敎の未だ行れざる比には連りに之を罵る也、すでに其行れんとするに至れば先づ演說して之を賞める也、四五年前には娼妓を有がたしと賞めたるなり、此頃に至れば少くとも默するか若くは廢娼論に加擔する也。吾人もし富まんことを欲せば此策を用ゆべし、然れども靈に於て富まざるを何如んせん。

少年よ、必らずや之を以て眞成功と誤認すること勿れ、如此き隨從者は遂に永久の成功者に非る也、ロモラは能く才子ティトーの一生を識れり、彼女リローに敎へて云く、

昔し或人ありき余れは之に親しかりしゆへ能く其の一生を知れり、彼れ年少く、美且つ利潑にして、風采溫和親切なりしかば、見るもの皆な彼れを好けり、余れ信ず余れが初めに彼を知し時は彼は決して卑しきこと殘酷なることを考ふるだに爲ざりき、然るに彼れ己が好まざることを事々に逃れ、たゞ一身の安逸をのみ求めたるが故に遂に非常の惡事を爲すに至れり、彼は父を棄てたり、又總ての信用を破れり、たゞ躬から安全にして富み榮えなんことを祈れり、然し乍ら不運は遂に彼に追付たり。

嗚呼所云る才子あるものゝ成れの果ては遂に何の日か皆な如此くならざらん、夫れ改革者中の大改革者はクリストにあらずや、而して彼は嘗て笑へりしことなし、嘗て安居したることなし、最后には十字架に掛けられたり、之れ果して不成功か、目を擧て見よ万國は遂に其國とならんとす、少年よ、逸居して死し死して永久死するか、改革者と爲つて死し死して而して生くるか、少年よ乞ふ其一を擇べ。

論說

ベルツ氏の存娼論を駁し且つ廢娼論に付きて一言す

イービ

左は過日矯風會廢娼演說の席上に於て演述せられたるものにして、其の日本語にて滔々辨述せられたるを一句を洩さず筆寫したるもの也。

今日私供茲に集まつてお互ひに考へ樣とする所ろは、吾人の注意すべき事の中ち尤も價値あるとの一つで御座い升、私は此價値ある問題に對して相當の論辨を爲すの力なきとを自から感じて居り升が、今日此の大切なる集りにお招きに預かりましたから、些さか自分の考を述て、今日の日本に正義道德の進歩を致すべき此の貴重なる事柄に對し、諸君の御盡力に些さか力らを添へたく存じ升。

眞との基督教は、其到る所ろに、人民の輿論をして不潔不道德に反對させるもので、之は基督教の敵たる不道德が全たく地を掃つて空しくなるに至る迄は、決して止まぬもので御座る。如此く不道德と戰つて勝を奏したる所ろは、此れ迄で澤山に見る所ろで、基督教より起れる感情が今日此の日本國に廢娼の必要なるとを見止めて熱心之を主張せしめ、彼の佛教徒迄が道德の事にイクラカ力らを盡すやうにさせた所ろを見ますれば(喝采)、日本の基督教會は數の上から言へば少ないなれど、一つの國民的の勢力を持つに至りしとを現はすもので御座る(喝采)。

サテ、廢娼の事に付て、自分の考を述ますのに、豫かじめ方向(エイム)を定めれば成りませぬ。茲に一つ困るとは、論ずべき事柄が實に澤山あつて、時間に限りが御座い升から、其中に何れを擇んで論法を定めて宜しきや、大ひに迷ふ所ろで御座る。

此間だの事でしたが、ドクトル、ベルツと云ふ西洋のお醫者が(啞然)、西洋人並びに醫學社會の代表をせんとして、大學講義室で娼妓に關する演說を致されました、其の御說を承はるに、娼妓を置く事は必要であつて、只だ取締を好くすれば宜しひと云ふとで御座いました、私は今まベルツ先生の御演說に付て少しく批評を試みやうと存じます(喝采)。

ベルツ先生の御論は、決して西洋人の輿論を代表するものでもなく、又た醫學社會の見識を代表するものでもなく、只だ獨逸の一類の醫學者の狹い標準に基づいて(大笑)申されたとで、歷史上の事實に現はれたる所ろ、並びに國民たるものゝ幸福を致すべき深き天理を蔑がしろにして申されたとで御座る(大喝采)。

先づベルツ先生のお說では、今日の日本には條約改正、國會開設など云ふ大切なる問題があるのに、何んぞや(笑)廢娼など云ふ小いさな(笑)事を喋々論ずるは其意を得ぬと申されました、眞とに驚ろき入つたるお言葉と申すの外は御座りませぬ(大喝采)。國民たるものゝ外側に現はれたる事柄は大切でありますが、其の生命なる內側の事は大切でない、考へる暇まが無いとは、卑しひ事の限りで御座る(拍手)、成程先生の申されたるとは、大切なるとには違ひない、左れど道德に關はるとは尙更ら大切で御座る、ナゼなれば國民の生命は其の道德の何如んに關はるものでありますカラ。道德は政治より大切で、人民の品行が修まるのは、政體の上邊の形ちよりも遙かに大切で御座る。

然るに先生の仰しやるには、只だ無經驗の靑年どもが、ワイ／＼(大笑)と云ふのだと申されました、ヨシ其通りにせよ、若いのに夫れ程迄に、己れの姉たり妹たり兄弟たるものゝ爲め、又は將來生れ來るものゝ爲に、力を盡して善事を計るとは實に立派の事で御座る(大喝采)。

娼妓を存して置くとの最大なる弊害は、若き男女の上に及ぼす所ろの害惡にして、其人々をして后世の者にまで、其の黴毒を流すもので御座る、左れば一國の靑年となつて其國の害となるものを避ひ、之を取除くとに力を盡すのは眞とに結構の事で御座る。廢娼論を主張なさる方々、アナタ方の味方は澤山御座います、此國の心ある人々、並びに外國にある最良の人物は、多く皆なアナタ方と同じ考へです、アナタ方の何より賴よりになるとは、凡そ眞理たり正理たるとは、皆なアナタ方の執る所ろを助けます。要するに、神がアナタ方の味方であるから、遂には勝を奏すること、更に疑ふに及びません。

ベルツ先生は、此の廢娼論を唱へ出したは、主もに基督教の宣教師だらうと申されました、もし果して左樣ならば、私は之を以て恥る所ろではなく、自慢を致したい程で御座り升。何れにしろ、先生のお說では、本國數多き耶蘇教が此事を主張しても、いつも成功したとは無いのに、少數の耶蘇教徒が、カレコレ廢娼を唱へたとて、到底行はれるものでは無いと仰せられました、此に於て亦た先生の仰せられたとが間違つて居る(大笑)。英國並びに英語を用ゆる國々に於ける基督教徒の感情が、此事に關して大層反對を主張したが爲めに、大ひなる變化を生じました。ヨウロッパの內に娼妓を許した國が數年の間だ澤山御座いましたが、英國の基督教徒は決して之を許しませなんだ、凡そ二十年前で御座いました、ベルツ先

生のやうな御醫者さん達が、何か手立を用ひて陸軍及び海軍の爲めに娼妓を許し、之に適當なる取締を爲すとを英國の國會で可決するやうに計りました、スルト英國の輿論は忽まち沸騰しまして、其の欺かれたるとを憤ごうり、基督教主義の者が奮ひ起りて一の同盟を結び、英國は愚ろかどこにでも之を全廢せしむるとを主張するやうに成りました。此同盟の者が十二年前、スヰッツルランドのゼチバで集會を開き、かの獄にひとしき商賣に反對して之を倒すべきとに取きめました。其時分には何さま娼妓を許して御座ひましたから、向かふは政府の許しと云ふ城を構へて居りました、中々容易には倒れそうもなかつたが、今日となつて見ると何如で御座いますか、其基督教主義の運動はドノ位いの事を仕遂げましたか、其力によつて物事が全く一變するやうに成りました、英國では公娼は全く根を絶つて仕舞ひ、其領分の國々でも娼妓は追々と無くなり、全く無くなつた所もあります。フランスのパリスでさへ娼妓は追々とびれて參りました。イタリーもヤゝ廢娼の方へ足を向けて來ました、規則で束縛して撿査をしたり、娼妓の屆けを登記するとは全く廢しました。オランダでも公娼の廢された所ろが澤山あります、遂からず全國悉とく廢するに至りましやう。其外の國に於ても、矢張り同樣の進步をして居ります、此の廢娼は其の初め甚はだ微々たるもので御座りましたが、遂には大勢力を握るやうに成りまして、理學の大家が此の同盟の主張者となり、其形勢全く成つて、ドコの國にも此のキタない病ひが全く無くなるに至る迄は、決して其盡力を止めないに相違御座りません。たとひベルツ先生のやうなお方が、此等の事實を無いものゝやうに仰せられても無效で御座います。西洋に於て基督教主義の骨折は、決して無駄で御座いませんでした、善と惡との戰ひは何處にもありますが、基督教が神の御心と目的とに基づいて、善の爲めに働らくときは、其勢ほひ實に當りがたく、たとひ在るとをないがしろにしたとて、其勢ひを挫くとが出來ません。又たベルツ先生は、公娼を許さぬと云ふとは聖書の教より出でたものでないやうに申されましたが、誠に合點の行かぬお說と申されば成らぬ、使徒ポウロが信者の中ち惡しに入つたものがあつた爲めに、涙をこぼしたとがあるゆへに、聖書は公娼に反對するものでない、聖書は今ま存在して居る法律を廢せよと言はぬから、公娼を禁ずるものでない、之が先生の御議論ですが、失禮ながら少しも道理のないお說と申さねば成らぬ、基督教國中、基督信徒の名を帶びて居て、其行ふ所、教への道に反對なるものが在るに違ひない、又た此の類ひの人物が日本にも參つて居ります、此類の名目基督教信者が、西洋の教へを無にする爲に自から好き自由なる行なひを爲し、そうして耶蘇教は役に立ぬと申すのは、何んと御尤もと聞かれましやうか。聖書には初めから仕舞ひ迄で、色々な仕方を用ひて、公娼及び其外の惡業を責めてあり升、ドコの國でも聖書の主義が十分の活動を許さるれば公娼などは忽まち無くなつて仕舞ひます。公娼及び其外の不德が世に尙ほ存する譯は、人々が十分基督教の精神に則つとらぬからで、基督は慾を以て女をながむるとさへ罪なりと仰せられた位ひで御座います、又た弱きものをして罪を犯すやうに爲すものは、たとひ一己人にせよ一國の政府にせよ制度にせよ此類のものは禍ひなりと申されました、左れば公娼なるものは、聖書の教ゆる所ろと正に反對するを恰かも光の暗きに於けるが如きで御座ります。

之よりベルツ先生が公娼を存すべき理由として論ぜられたとを一つ考へて見ましやう、が、其前に御注意を願ふとが御座い升。外の事でも御座いませんが、廢娼存娼など申す事柄に付ては、生理學者やお醫者さまの言ふと許りが當てになるものでは無いと言ふとです、或る道理の上より申す外は、醫者などが此の問題に口を出すのは大ひに御商賣違ひで御座います(大笑、大喝采)、此んな問題は醫者樣に直接なる生理的の事柄の外に、まだ衞生上、社會上、工業上、道德上、及び政治上に關係を保つべきもので御座る、醫學博士ひとりが此樣な込入た問題を議すべき適當の人物で御座いましやうが、決して左樣では御座るまい。然し只今の所ろ、其他の關係は扠てチキ、生理上及び衞生上、此事を考へて見ましやう。若し人間は啻に一種の動物であつて、躰だ丈け成長した赤兒のやうなものであるとすれば、人間の事を斷ずるには、生理學上の標準丈けで澤山であらうが、人は決して其樣に單純なものでなく、色々の能力や勢力が其の境遇の爲めに樣々の感化發育を爲し、肉躰と精神との力らが、こも〳〵相ひ感動して、互ひに作用を及ぼし、初めて人となるものにて、一言以て之を言へば、人は社交的動物であるから、一國人の健康も、之を考ふるときは純然たる生理學上の範圍よりも尙ほ廣き所ろに基づいて考へねば成らぬ譯です。醫者の業と衞生との間だには、大ひなる懸隔が御座います、醫者は病ひを療治し、衞生家は健康の事を扱ふものです、病ひのある躰だを丈夫にさせやうとするのは、醫者の役で、人の健康を保ち之を改する法方を講じ以て外部にせよ、內部にせよ、惣べて健康を害するものを防がふ

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

さするのは、衛生家の心を用ゆる所ろです。一國人の事許りではなく、一國一社會の爲めに、健康の害さなるものを取除くことを計るは則はち衛生家の勉むる所ろで御座います、醫者が只だ專門さする所ろの病ひの療治方にのみ心を用ゆる所ろなら、遂に社會公衆の衛生もしくは一國人の衛生に關して其眼こくらみ、爲めに片寄りたる考を懷くに至ることは能くあることで御座い升。廢物即はち物を廢するは宗教家許りでなく、理學社會にもあるものです、たさへば生理學を專門にして夫れに計り心を傾むけて居る人は、只だ其事にのみ目がついて、其外の高尚優美なることには目のくらむことが御座い升す、業務に熱心なるは結構で御座りますが、極端に走れば甚はだしきことまでも行ふに至ります。

然し皆樣、私の申す所ろをお取り違へなさらぬ樣に願ひます、醫者さまは皆なさうださ申すのでは御座いません、只だ餘り一つ事に凝り過ぎるさ其專門さするものゝ中に得られぬ所ろの事は外の道より得て以て其心を高尚にせぬさ、偏見偏傾に陷いる恐れが御座います、眞誠の醫者たるものは其の專門さする所の事に奴隷にならず、其病ひを醫やす所ろの術を以て人民全躰の健康を維持すべき方法を考へれは成りませぬ、其目的さする所ろは一己人の躰の中の病氣を療治する計りではなく、社會全躰の病ひを療治して、之を健康に保つべきことを勉むるので御座います、一己人の有樣を考へるのは、只だ其の本分の一部分に過ません、凡そ社會に感化を及ぼすことを考へるには、社會中に存する事柄を考究せれば成らぬ、其上で之は害になる、アレは益になるさ云ふことを初めて定め得るのです、單純に醫者さ云ふ所から考へれば、此の病人は惡るい女から其病を引うけたのである、不道德を行ふのは構はないから丈夫な女を當がつて病をうけぬやうにせれば成らぬさ云ふ丈けでせう（大笑）然し眞誠の醫者たる衛生家の心から申せば、其病を受けたものを療治して直さなければ成らぬことは勿論、其不道德なる行ひを止めさせて男女さもに汚れることを止め、社會の汚れさなつたものを左樣でないやうに成らしむることを勉めなければ成らぬ筈で御座る。然し一人の醫者が道德上から事を考へるさ、外の醫者は其醫者を評して自分の商賣外の事を談ずるさ云つて之を非難し、醫者は人の躰だ丈け見て考へて居れば善いさ云ふ人も出て參ります。現に二三週前のジヤパン、メール新聞の投書に此樣な評が出て居りました、公娼を贊成する所ろの御醫者さん達は偏頗の人に止まつて居ます、醫者及び理學者の尤さも高尚にして善き人々は社會全躰の上に眼こを配つて、道德上清淨なることの社會に廣まることを贊成し、苟くも社會を汚す所ろの事は勉めて之を追拂ふことを贊成するものです。

一己人の健康には其周りにあるものより感化を受ることは何う云ふ譯柄であるか、又完全なる健康を保たんに、道德さ眞誠の理學さは、何うすれば調和することが出來るか、道德上正しき社會の境遇を必要さするは何う云ふ譯であるか、別に譯がある次第ではなく、人の躰は人たるものゝ僅かに一部分であるからです、眞さの人たるものは、惣べての器關、能力、及び勢力の寄り集まつて出來上つたもので、此等が一つに合躰して完き一個人の資格を爲すのです、此手は獨立したものでは無い、其力を保つは躰の健康なるに由るもので、全躰の要する所ろに則つさつて居るから其役を爲すので、若し勝手な事を爲れば、一向入用のないものです、又此の躰さても獨立したものではない、私さ云ふものゝ一部分で御座います、此躰の丈夫で役に立つのは、精神の方則に隨つて居るからである、其の方則に隨つて初めて已れさ云ふものゝ役に立つのです。又た此の一國人さても獨行なるものではない、即はち社會の一部分であつて、社會に云ふ大きな躰に役に立つやうにすれば、自分の健康をも全ふすることが出來るのです。故に一個人の躰に力を保ち、且つ役に立つものさならんには、社會の法則に能く隨がはれば成らぬ、手も躰を離るれば何も役に立たぬ、躰も心を離るれば無用なもので、一個人其の健康を保つさ保たざるさ、發達を爲すさ爲さゞるさは、其屬する所ろの社會の何如によつて定まるもので御座る。

人間社會は人の躰さ同じく、一つの器關で御座います、器關に關する方則が一個人の器關を支配するが如く社會の法則が一個人を支配するもので御座る、此法則を破つて其禍を蒙らぬものは一人も御座いません、此方則は哲學もしくは理學の研究から定めたるものでなく、モツト高尚なる變ることなき、勢力の定めたる所ろで、之れこの勢力を自然力さ云ひたい人は左樣に名づけてもよろしひ、何んにいたせ、人の及ばぬ力の定めた所ろのもので取も直さず天地の主なる神さまのお定めになつたことで、之が理學の上に、又た社會の上に、チヤント刻み付けられて居るので御座る、吾々人間は此等の方則を决して免かれぬ譯には參りません、其方則は私し供よりも遙かに力づよいものであり升、もし人が其方則をないがしろにすれば、そうする人が澤山あるが、必らず禍を招くに至ります、若し國民にして之をないがしろにすれば、此迄で既に廢ろにしたものがあるが、うけ合ひ、其結

果ある惡害を招き爲めに倒されるに至ります、此方則は万世のものに向つていつも變るとなき戒しめを與へて居ます、其戒しめには、正しくあるべし、節操を守るべし、清くあるべし、と云ふとです。此戒しめは生命の學問より極めたるとにして万物の組織に關する自然法に基づいて出でたるものであつて、一國民及一個人の經歷の上に於て此戒しめの正しきにはます〳〵明らかに現はれて參ります。若し一の器關が器關に關する方則に隨がはぬならば、人の躰が人たるものに關する方則に基づかず、人が社會の方則を守らなければ其の之を侵す所ろのものが夫に對する損害を受る許りでなく、器關全躰の上に害を及ぼすに至ります、然らば誤まつたる生理學に基づいて或る醫者が肉躰の病を醫やすとを試みるも、尙ほ一個人銘々が肉躰及び社會の健康に關はる所ろの法則を破るとを奬勵するならば、此類の醫者は人及び社會の眞さの健康に反對する所ろの仇人で御座います。ナゼなれば其人の言ふ通りにすれば、病を直すとも出來ず、又病及び死の種を播く所ろの害毒の傳播を防ぐとも出來ないからで御座る。（次號にて畢る）。

編者云く、次號には外國人にして日本の風儀を觀察したる所ろを忌憚なく直言し、且つ外國に於ける日本人道德の評判を在の儘に暴露したる一段に及び、尤も慷歎痛泣すべきの筆記さなるべし、長文なれども請ふ、終に至る迄通覽せよ。

懸賞和歌募集廣告

春陽來復花笑ひ鳥歌ふの佳節さなりぬ或は東風輕袖を拂ふの日麗々さして水上に亂るゝ花を眺め或は微温肌に快きの夜朧々さして中空に霞むの春月を望めば誰れか多少の感なからんや夫れ和歌は感情を發表するの器なり我社會題を揭けて廣く和歌を全國婦女子より募り一は以て歌道の隆盛を計り一は以て女子の此道に一層熱心するに至らん事を望む江湖の婦女子諸君願くは續々秀詠を投寄せられん事を

歌題　　水邊落花　　春月朧々

○本月卅一日限〆切○第一等賞上製百人一首講義○第二等賞奨製百人一首講義○第三等賞女學雜誌一ヶ月○一題につき一人一首に限る○撰者池袋清風大人　　女學雜誌社

第二回懸賞文の問

題。女學生出校して后ち學びたりし學科の何れか、尤も實効を奏せしや、附たり出世后學窓を顧みて敎科上に於ける感覺何如ん。

右答文〆切四月五日限り、一等賞女學雜誌廿冊切手二等同十冊切手三等同五冊切手

日本に於ける婦人問題（第二）

余は第二段に進みて家族生活の如何にも寛裕にて親愛の念に滿たる狀態につき一二の言有らんとす。

他國にして『子は寶』なる金言を服膺する日本國に於る如き者有るまじかく計りの愛と慈とを以て子女を敎育するの國は他に尠からん英人嘗て『日本は子女の樂園』なりと稱賛せり誠や言や實に此國に於て夫婦間に子女を設けざるを最大の不幸とするは著き事蹟なり紀元千八百七十年に至る迄は古律に因り國內子女を設けざる者は他家より嗣子として子女を養受る事を得たり見よ今日に至る迄古來大家世々相續して其系統を斷ざる者多きとや太古王室の始より連亘の聖統引て二千五百六十有餘年の久きに堪る者は單に此後嗣を重ずるの風習あるを以てなり王家の永續は日本特有物と稱して可なり。

學校組織は現今整頓の域に進たるも昔時に於る不完全は實に憐む可き者なりし也處女は其習ふ所家內配採の業に止が故に其知る者編物、裁縫及首として巧なる髷結法等也其道德は主に支那傳受の敎より得たる者とす目今女學校は其數二万八千の多きに及ぶ各校其敎授法の完全せし者尠からずと雖其生徒の過半數は卒業期に及に先て退校するを常とす今此原因を考

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

察するに日本國にては十四歳を以て婚姻の大禮を擧ぐるの妙齢となすが故に學藝上に力を勞せしむるよりは寧ろ此齢に近ては家内取扱法及夫婦相互の禮を敎授するを大切なる課業となせば也此件に關しては千八百八十二年に出版したる一書あり書中詩家列傳、詩歌、善行錄、婚姻表及書簡文なる章中に精し此を參考せば明瞭なるべし日本家族の服膺する宗敎は支那孔子の儒敎道德なり即『女シスコ』(譯者曰女大學には非る乎)と稱する書あり說て曰く妻は夫に服從すべし男は輝き女は暗しと。

德川家康律法中に往々此類の令を見る若輩の妻に勸めたる條に若き女は德義は之を共にし不德義は是を斥け万事扣目になすべしさすれば夫婦の間和睦す又禁じて女の愼む可きは不順、姦惡、嫉妬、驕粧及浪費なり務む可きは勘忍、貞節、忠愛なるべし殊に其舅姑には萬事謹聽すべし云々歐洲にては『舅姑』なる字は左のみ注目せざるも日本にては其嫁と舅姑との間大に我邦に異る所あり即ち新婦齢尙稚くして自ら一家を總裁するの力に乏きが故に其夫の兩親と同居して其扶助を乞ふとなり此他家康公律令中婦女に關する條件は概ね不都合にして人の妻女は恰も二世を契りたる夫の扶助人たるに非ずして仕婢の如き觀あり。

反之現今女流が此壓制的分子を排除して其地位を一變せるは其亭主の外人に對して語る辭を聞かし彼曰此女は我家の主婦なりと女流の歷史の潮流を動したる者數多し女王帝位に卽き政權を左右せしの屢たりしを以ても知り得べし。

夫婦の緣を定むるには嚴格なる婚姻式を擧ぐ首始新郎と新婦兩親との間に數回の緣談あり後『見合』なる會合に於て兩新郎婦の交互心情に適中するや否やを見る此會合にて相方とも意見無き時は早速新郎より新婦に贈物を遣り以て緣談を整ふ婚禮當日には新婦晴裝新郎の家に輿入す式上にては祝宴を擧げ一二の禮式を以て此大禮を終る然而此二世を契りたる夫婦が直ちに慘淡なる離婚を演するの容易なるには驚ろく可く否悲しむ可き事也、離婚の最なる原因としては其妻の舅姑の意志に協はざる事、子女を胎まざる事、姦淫、竊盜等に基づき亭主の不機嫌を惹起するあり殊に妻女の喋口を嫌惡する甚し離婚の基多くは此に在つて存す或日本人謂へるとあり「三寸の舌六尺の大人を倒す」其家康の律法に順へば妻女亭主より離婚狀を受れば媒介者の許に至り事情を叙て其所置を乞千八百七十三年妻女故無して亭主より離婚せらるか或は壓制的手段

を以て强迫幽閉せらるゝ時は之を政府に訴訟するを獲たり離婚事件の頻繁に起は但し下等社界あり統計によれば百ヶの結婚中四十ヶの離婚ありと云反之上等社界は膠漆の契固く四海浪靜あり此事件の原因たる前記の他に亭主の蓄る傍女『妾』に因る者あり抑も妾は法律上正妻の仕婢たる者となれども亭主人の擧て副妻となすに至ッては遂に正妻女の嫉妬騷動を惹起するあり余は信じて疑はず今後公布せらるゝ律令には必らず蓄妾問題に關する者の編成せらる可きを見よ既に王室範典中を窺ふに古來習慣的たりし此弊害は向后全廢の傾向に及べるに於てをや日本女流の多數は今や憤慨蹶起して一夫一婦の聖德を恢復せん事を計畫せり向後日本婦人をして其智識を高尙にし其準備を精密にせば否彼等に男子對等の位階たるの要素を鑒みしめば彼等の社界運動に大波瀾一革命を起す遠からざれば此般の智識に基督敎的の道德の適用こそ至要なること衆人の肯る所なり然れども余は日本女流の迅速的改革及自由釋放を望まず天然に順はざる事業は決して其正鵠に明中する能はざるを信ずれば也余は日本國女流否亞洲婦人中に眞珠の稱ある靖洲婦人に熱望す寔くは此高尙なる問題を社界に捧出するの近きに有らん事を云々。

演者はハンプルと博物館出品物より日本寫眞、錦絵、切地、衣裳等を聽衆に示て拍手喝采の間に此鑑要なる演說を終たり。

批評

廢娼論壇第一先登、上毛青年の初陣

此書は廢娼事業の爲めに聯合したる上毛青年聯合會より發兌したるものにて、中本一冊百五六十葉に越え、德富君と巖本その序の外に、前橋に於ける島田三郎氏の演說筆記、上毛の青年に出たる非賣淫公許論、縣會へ提出せし建議書の大要、廢娼運動概況、群馬縣貸座敷營業者資產調書、群馬縣會議事錄等を揭げ、最后に知事が與へたる廢娼認可の命文を載せて此運動全勝の功績を報じたる頗ぶる爽快有益の書あり、特に有益あるは議事錄にして當日群馬縣會に於ける甲是乙駁の大激論は、一々紙面に躍りて疾風怒濤の狀を示し、通讀の際思はず肉震ひ骨動くの感あらしむ、三十六番高津氏の說に

若し存娼論者にして之が爲めに黴毒を防ぎ私通を減ずるの効ありとすれば何故に全縣下の各地各處に悉とく妓樓を設けしめあいか。

五十六番荻原氏の說に、

且又廢娼建議の出ますのは何如て御座いませう第一娼妓の居ります場所から出ます又此議場を見渡しても其通りで存娼論者には兎角妓樓なき地の御方が多いやうです。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

如此き有益なる論議頗ぶる多し、而して一冊實價八錢なりといふ、其格外に廉なるは有志者寄附金の助多きが故也。

○學校衛生論

中本上下二卷 定價金五十五錢　金港堂發行

人類の社會に生存するや公衆衛生の必要なる固より論を俟ざるあり、然れども衛生の事業たる之を口に唱ふる事は容易く之を實地に行ふ事は難し、よし千遍萬遍之を口にするも一遍も之を實地に行ふ事能はざるときは衛生の業夫れ何をか爲さん。特に學校とは人兒の爲敎育を敷く所なり、否小兒より成年者迄の爲には德育より智育より寧ろ體育を重じて敎育せらる可き所なり。然るに本邦の如き幾千の敎育家兒童敎育の爲に働く者あるも未だ正しく學校の衛生に注意する者稀なり、數百遍敎科書を改正するも豈一童兒をして健康ならしむるに足らんや。本書は小林義直氏の譯にかゝる英國の醫學士アルサス、ウヰスホルム氏の學校衛生論なり、章項順を逐ふて學校に關する衛生を說く事略ぼ整へりと云ふ可し、特に校舍の建築法、机卓、椅子の製作法、腦の發育に從つて學課を定む可き事、書籍器具の製作法、傳染病に就ての注意等の篇は實に有用の文字ならんと考ふ。然れ共譯文諸所不明のものありて意義を解するに苦ましむ、此れ翻譯書一般の弊害にして强ち本書の譯者のみを責む可きに非ず、事實悉く歐洲の事情に懸るを以て本邦學校の上に應用し難きものあり、されど世の敎育家諸氏右には如斯の書を讀み左には適當の衛生家に就て日本の學校に適合する衛生法を講究せんとせば本書實に一讀の價値ある可し。

（右三島通良氏の批評にかゝる）

星界想遊記

哲學書院發兌

井上圓了氏の著に成る小本なり、共和界、商法界、女子界、老人界、理學界、哲學界に想遊したるの記事にして、素と著者が豆州修善寺溫泉入浴中一夕夢中に現出したる空想の由、左れば其の學理に照し實際に徵して考へ難きと抑そも當然の事なり、著者西洋に遊びて近日歸朝したるゆへ世人が之に需むるの念更に高大なるな。

新々長崎みやげ

長崎新街活版所

奇骨男兒の世評ありし天眼子の事とも云ふ喫霞病仙と號する崎陽隱士の著なり、長崎は今や亦た世人の多く注目する處ろにあらず、然るに百數頁の紙上に之を精細に寫述し、讀者をして坐らに其地に遊びたく思はしめ、尙且つ既に一遊したる心地をすら與ふるに至りては文章の妙亦少からずと云ふべし。

日本及基督敎

美以美雜誌會社

植田榮氏の著にして、初めに新島君の肖像及小傳を揭げ、本論に入りて基督敎が目下の日本を救濟利導する唯一の勢力なるとを說き、一二の反對論を辨駁し、愛の効德の甚大なるとを說きたる小冊子なり。

通俗齒の養生法

東京有効堂

人の命は食にあり、食の元は齒に在り、齒の養生方亦重んぜざる可らず、齒醫高山紀齋君の演述を門人の筆記したるものにて平易着實一讀して益を得ると多し。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

新著百種第八號を讀みて

漁山人

新著百種第八號成り、一本を寄贈され、多々謝々、例の駄評を試ろとのお仰なれども、前號に於て雲峯子細評されました、然れば山人何も最早いふには及ばないのです、けれどもお仰もあり、且は又いはずになくも、腹ちぎれる次第ゆゑ、ザツト摘ンで申上ましやう。

表紙も扉も平生になき淡泊な者で、亦目先變ッてよろし。

却説本文になりては、山人苦情があります。

新著百種とは、今世間に無類の新誌にて、世間にあるとあらゆる有名の作者が、思を焦かし心を潜まし、脱一杯筆一杯に、新作した者を、世に發表するのでしやう、然すれば翻譯した者を出だすのではありますまい、名から新著百種ですものを、山人は譯した者を著とは申しません、譯した者はどの様に譯しても、譯したに相違ありません、無名氏も學海翁も、此點にお氣のつかれぬとはありますまいに。

無名氏のお作、如何にも結構です、多少の疵瑕はありましたけれども、そも氏の作は、原文の意を全くどころか五六分も取ッた所がありません、二三分の原意、七八分の自己の技量とを經緯され、出來た者が新著百種の芳李です、そして世人よりは翻譯物と、一概に抹殺されるとは、テモおなさけなし、何故いッそ日本の戰爭か、何かにして仕舞はなかッたのです、此位骨を折る位なら、もう一ト息ですものを、是では誠にキウして花も實も獲られません、次號には重れて何か新著を掲げ、判然と署名してくだされ、待ッておりますぞエ。

學海翁のお作は聊齋志異の全譯もの、（このとは山人申さうと思ふうちに、讀賣紙上にて稱何とかいふ、假名俗心の方に、先鞭をつけられたれば、取れては何もいはず）文は如何にも了得學海翁といふだけで、十分の評になりましやう、翁も何故獨得と稱せらるゝ新作の滌帳を披かれなかッたのです、翁平生の筆鋒にて書かれぬとはイエサ立派に書かれるとは、山人信じて疑ひませんに、支那の妄言を譯されておきながら、小野篁とは餘り强面、文意で見ますると必ずしも篁でなくてもよし、翁自らでもよし、又はかく申す山人でもいゝではありませんか、あどゝ今更愚痴をいッた所が、十日の菊、翁も次號にて獨得の滌帳を以てせられんとを、山人は希望します。

現に角此回の新著百種は、先つ我心を獲ませんから、詳細の評をしますに懶し、まして前號に雲峯子の評もありましたから。

先づ大畧右の如くです、筆の序ゆゑ、學海翁のお作も妄評いたしをきました、お序の節翁に御傳言下されたし。

前週新誌

○福音週報

今の時に於て各宗各派より機關雜誌を發兌し、特に其新たなるもの起るに及びて書きもの頓かに改良すと云ふが如きは、抑そも俗世の兒戯に等し、宗教界に於て亦た斯る事あらんとするは喜こぶべき者にあらず、況てや最初警醒社を創立して今の基督教新聞を刊始したる發起人中、小崎弘道植村正久の二氏は尤も責任重き人なりき、然るに植村氏は其「日本評論」を發兌すると共に今度更に福音週報をも發兌するに至り、兩氏如此く勞を分ちて別個に同樣の事業を執るは、目下不人の當世に際しては蓋し滿足すべきとに非ず。吾人福音週報第一號を見るに、其編輯宜きを得、材料特に佳なり、思へらく此類の週報中確かに最良なるものゝ一なるべしと、然れども基督教新聞の外に於て新たに此者を見るは宛がら兄弟鬩を對していよ／＼出世するの感あり、其の共に善ければ善き程に一層掛念せらるゝ也。夫れ如此く新たに起るに至りしは樣々の必要ありての事なるべし、但だ此上は此等を總合し、基督教新聞も、福音週報も、眞理の鏡も、教義も、基督教雜誌も、福音月報も皆な一つとなり、例へば米國に於けるインデペンデントの如く、各派を代表する委員の手に成れる眞個獨立の基督教週報とならんとを希望す。

○遊女學校の事

黑川眞賴氏が學士會院に於て「遊女の話」を講じ、末段に至り遊女學校を設くべきとを一言せられたるに由り、國民新聞も、日本も、讀賣新聞も、嚴しく攻擊したり、蓋し身博士の地位に居り、且つ袴を着せざれば聽聞を許さずと云ふ神聖なる學士會院の演說會に於て述べられたるものとしては、少しく遺憾なき能わず、諸新聞が之を攻擊するも一應尤もの事にて輿論の漸やく淸くなるものとして慶賀すべき者也。然れども吾人は學士會院の演說なるものに左程の重きを置かず例せば長谷川氏及びベルツ氏が大學の講義室に於て怪絕の演說を爲したると同樣に見做し、別段之をのみ奇しますして一般世論の甚はだ低きとを歎き居るもの也。而して遊女學校を設くるの一議は稍や理なきに非ず、彼の女紅場と稱する如きものを各遊廓に設置するは廢娼の一手段として寧ろ益あるとあらん、但し此學校の教育によりて遊女の品格を高くし、一層高等の人の需めに應ぜしめんとするに至りては、愚論固より沙汰の限りと云ふべし。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

○金融論

三月十五六兩日に出でたる時事翁の金融論は近來出色の文字と云ふべし、翁は常に批評家の口を叩き、自ら任に當りて立策するとなし、然るに目下の金融必迫を救ふの法としては、遂に四つの奇法を献けたり、議甚はだ面白く文字亦甚はだ美なり、吾人は今日こそ翁と共に頌德の祝詞を實にせんとを希ひて止まざるものなれ。

徒らの愛は、浮草に乗るに似たり、

草いまた枯れず、身すでに墮落す。

雜錄

閨秀小說家の答

第一　小金井きみ女史

女史の譯文屢ば「しがらみ」草帋に出づ、近時文學世界を感動せしめたるは其の「皮一重」の作なり、同上草帋第三號に出づ。

一　おのれはいまだ小說といふ物作りしと侍らずされど支那西洋(大方は英吉利の人の作にてさらぬは英譯の物のみ)の小說をかつ〳〵譯せしと侍りきこはまづ筆ならして後にまことの物ものせんとてなり此こゝろざしをたてし由緣は三十一文字にては云ひつくされぬこと多きに長歌の躰もいまださだまらず小說の外にしかるべき躰をしらねばありいまでなしたる反譯の上にてはわげて云ふべき經驗も侍らねどいまの言文一致といふものにはいやしきふしも少なからずされぱとて古文のまゝを今さらに作出んもねがはしからず活語てにをはの法をたゞして今の言葉をも用ひほどよき物をかゝばやと思ひ居り侍る。

二　小說の理想とか申す物につきては考も侍らねど極實派とか云ふものには女子にふさはしからぬ事ありと人にもいましめられおのれもげにとおもほゆたゞおのれが希望はい

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

やしき事をうつさむにも高き心をうしなはじと思ひ侍るのみ持論なと云ふむづかしき物は思ひもより侍らず。

三　常にかたはらをはなたず凡そ廿度もよみたる物は源氏物語のほかにはあらず我國の小説落くぼ、うつぼ、竹取、住よし、榮花、狹衣、伊勢、今昔、大和、今、世繼、平家などの物語はいふまでも侍らず紫日記、土佐日記、蜻蛉日記、いざよひ日記、つれ〳〵草、枕草紙、大鏡、水鏡、増鏡、など一はたりは皆よみ侍りぬ一頃は馬琴の作を好みてよみたりしが今はかへりみず英書にて熟讀し侍りしは次に記したる二書のみ。

Frances Burney, Ivelina, or a Young Lady's Entrance into the World;

Miss Elyzabeth Hamilton, The Cottagers of Glenburnie.—

このほかに Dickeuse と Litton との小説を洋行せし友に送られて一つふたつよみ Irving は學校にかよひし頃家にてよみしこと侍り。

四　現今の大人達の作り玉ひし小説のよしあし又は今の世の文學のありさまなどにつきてをさなきこゝろを云はんは憚かりあればはぶきつ。

次號には曙女史の答文を載せます

青年の力　もみぢ

ビーコンスフヒールド公曰へらく、凡そ大ひなる事は青年之を爲せり、古來英雄の歷史は即はち青年の歷史の如しと、實に果斷勇猛の精神を以て事を爲すは青年のときあり、左れば青年にあらずして能く大改革を爲せるものは最と〳〵稀れなり。アウストリアのドンジヨンが近代著名の大勝利を得たる時は其の廿五才の時なり、インノセント三世は三十七才にして全歐洲を支配し、ジヨン、デ、メヂシは十五才にして僧正となり、パスカルは十六才にして大著を作り三十七にして早世する迄に既に佛國の哲學を動かせり、ラフエルは亦た三十七にて死したれど其遺す所ろの繪畫は万世に消るとなし、其他チルソンの如き、クライブの如き、リヒリウの如き、ピットの如き、孔明の如き、正成の如き皆な壯年にして大事を爲せり。夫れ保守の事は老人之を爲せ青年は常に止むとなく進歩すべきなり、ビーチヨル曰く青年にして若し保守あらば一國の弔ひの鐘すでに響くと、青年よ、青年よ、諸君請ふ力を奮ふて僻習を打破改革せよ。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

廢娼論につきて

よめるながうた　　田邊龍子

あきつしま　これのみくには
天つ日の　かけさしのぼる
もとなれば　よそにたぐひも
あれましゝ　神のみすゑの
今もなほ　おほ人草と
いやしげり　しげりさかゆる
大御代の　恵のひかり
みちてしも　猶くしたにの
女郎花　うきよのさかの
秋風に　なびき〳〵て
しら露の　おきふしごとに
ぬは玉の　かしらも霜の
おきぬれば　みはやす人も
なきのべの　おどろの下に
くちはてん　はかなき末を
思ひやれば　生立そめむ
はじめより　まがきをゆひて
うるはしき　にはのおしへに
枝をため　あしかる柴をば
はらひなば　まことのはなも
さかざらめやは

返歌

よそにしてみるはたくるし女郎花　おほ人草のうちとおもへば

小説病補遺

學者長家　籔中筍庵

前號に小説社會の三病に就て、彼是申せしところ、（何故臺帳病のことをいはぬの）又は（まだ一病ある臺帳病是だ）など、いろ〳〵諸方よりお勸告がありましたれど、本病はまだ日淺くして、十分のことが明解りませんゆゑ、それで實はぬかしておきましたが、お勸告に從ひ、書きつられたら、かうもありましやうか。

○臺帳病、原因、戯曲に餘り凝るか、又は觀劇に凝るからです、若者よりは割合老人に多いのは不審議、老人のうちでも、學問のよく出來る者か、然もなければ學問の出來ぬ人に來る病で、ナマハンカの人には稀です、共に其譯はまだ明でありません。徴候、輕症のうちは、無暗に臺帳や狂言や、俳優の藝に評を入ます、少し重症になると、自ら筆を取り臺帳めいた者をかきます、筍庵の長家うちに、此病にかゝつた者がありましたが、そのときは自分で俳優になつて、小石川邊で興行し

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

一つの帽を投げ

(一)取りて來よ

たといふとでした、して見ると作者にあるばかりでなく、デモ俳優になるとがあると見ます。

豫后及ひ療法　そも此病は此の二三年以來の病氣で、まだ患者も澤山ありませんから、よくは知れておりません、觀劇を禁じて癒ッたともあります、自作を舞臺でやらして見て、自らとても臺帳などは書けぬと、わきらめさせて、癒ッたともあります、自作を舞臺でやつた爲に、却ッて病勢をつのらせたともありますす、兎に角偷ほ試驗して見なければ、明瞭にありません、是の故に豫后もまだ善惡ともに解りません。

家則　家内の睦しきはおさんの手前奈何に關する事少しさなさす昔の川柳にも「三度食ふ飯さえ强し柔かし。

○小兒に藥劑を飮ます事

愛兒生

小兒を養育する時に度々藥劑を用ゆる事は甚だ宜しくない事で何んぉ醫者でも之はいけないと申します、小兒の身躰は甚だ薄弱のものですから少し强過ぎる藥を用ひても亦飮ませ過ぎても大變の害を與へますから成るべくは藥を用ひない方がイーです博士カ——ム氏が斯樣に云ひました、小兒を養育するに就て時としては藥劑を飮ませなければならない危急の場合がありますす、而し乳媼や母親が勝手に飮ませてはいけません平常の養生さへ宜しければ大抵藥を用ひる必要はありません若し醫者に見せて病氣があると知れても成る可くは藥を飮ますよりは養生で治す樣にするのがイーです此故に子供に藥劑を飮ます樣な必要があるのは乳媼か母親の養育方がわるい證據です云々と、然るに世には之を知らずして手前流に藥劑を用ひるものが澤山ありますが之は一時功能がある樣に見えても必竟害になるものですからつとめて用ひない樣にしなければありません、然れば藥劑を用ひないで小兒を壯健にあつて生長つ樣にするにはどうしたら宜しひでしやうか第一小兒の食物に注意する事が大切です其事は何れ亦次號に申しましよふ。

遺傳の話し

Y・I・

遺傳と云ふ事は實に不思議のものでもあり亦人類の幸福に大關係のあるもの故深く注意しなければならぬと思ひます遺傳の種類に四種あつて第一の種類は人々のよく知つて居所の直接の遺傳即ち赤兒が兩親によく似るのです第二のは間接の遺傳と云つて赤兒が兩親には少しも似ずして伯父とか伯母に似るのです第三の種類は赤兒が祖父とか祖母とか亦は遠き昔の先祖に似るのです此種の遺傳には色々あつて赤兒が母方の祖父母に似る事もあれば父方の祖父母によく似る事もあるのです第四のは赤兒が兩親に少しも似ないで其母の前の良人に似るのです即ち婦人が二度目に結婚して生んだ子が始の良人よ似るのです此理由は何か少しも分りませんが先の夫は死で居ても後に生れた赤子によく似ると云ふのは實際ある事です夫れ故現今の父にない病氣が其子に遺傳する事があります此道理で父母は少しも罪惡を犯さないでも其先の夫の爲めに子供が不幸の病氣を遺傳せらるゝ事がありますから結婚といふ事は實に大切にしなければならないのです遺傳でなくつて、

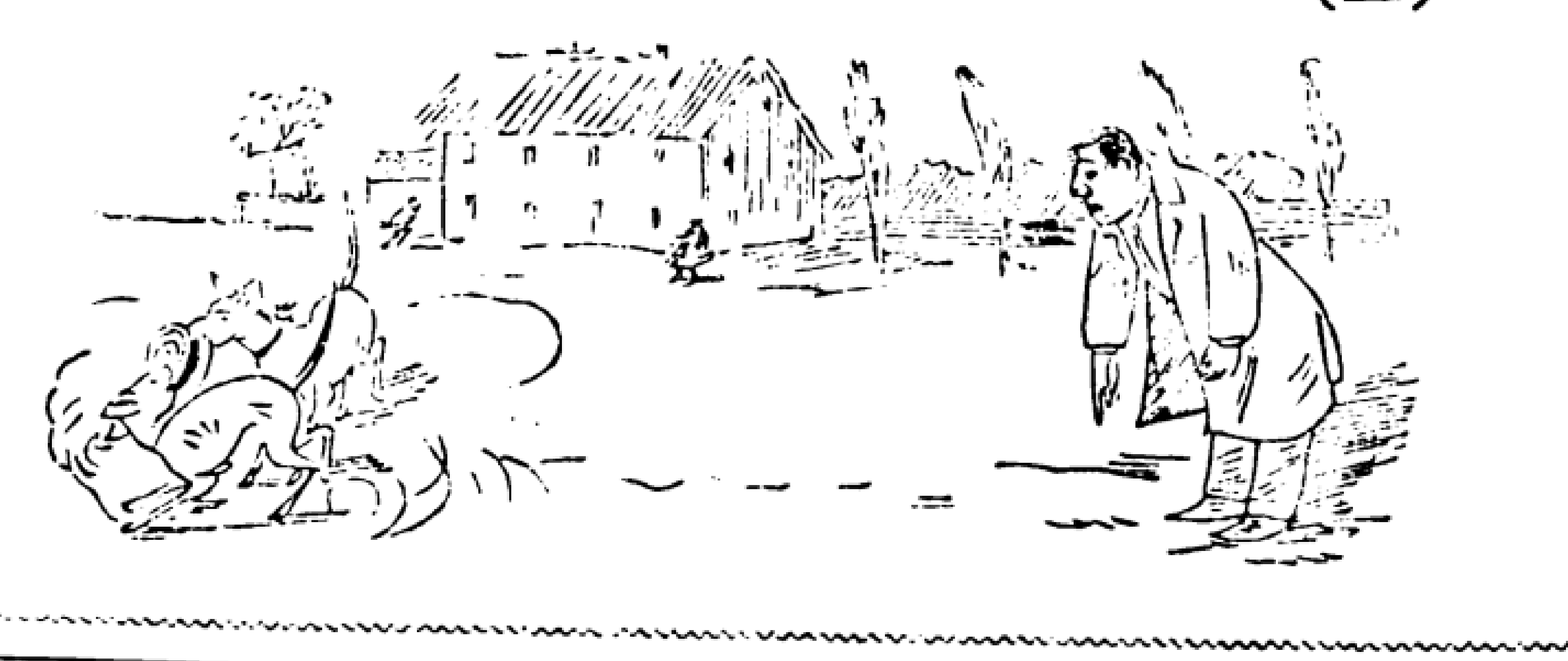
不具の赤子

が生るゝ事があるのです例之ば母親が孕で居る時に非常に驚くか亦は烈しく悲むと云ふ樣な事があると其子は生れた時から不具である事があります是は遺傳によるのでなく全く母親が心に非常に刺撃を受けるからの事です斯る種類のは母も父も持たない質を受けるのですから遺傳でないといふ事は明かに分ります。

躰格の遺傳

始に躰格の遺傳の事を考へて見ましよう不幸にして人の醜い所だけ似るのでなく奇麗な所も遺傳します夫れ故顏の奇麗の人の小兒は多くは奇麗です昔し希臘にアルシビエーヅと云つて非常に美しい顏の人がありましたが其先祖は代々美しかつたと云ひます又或國では法律を造つて毎

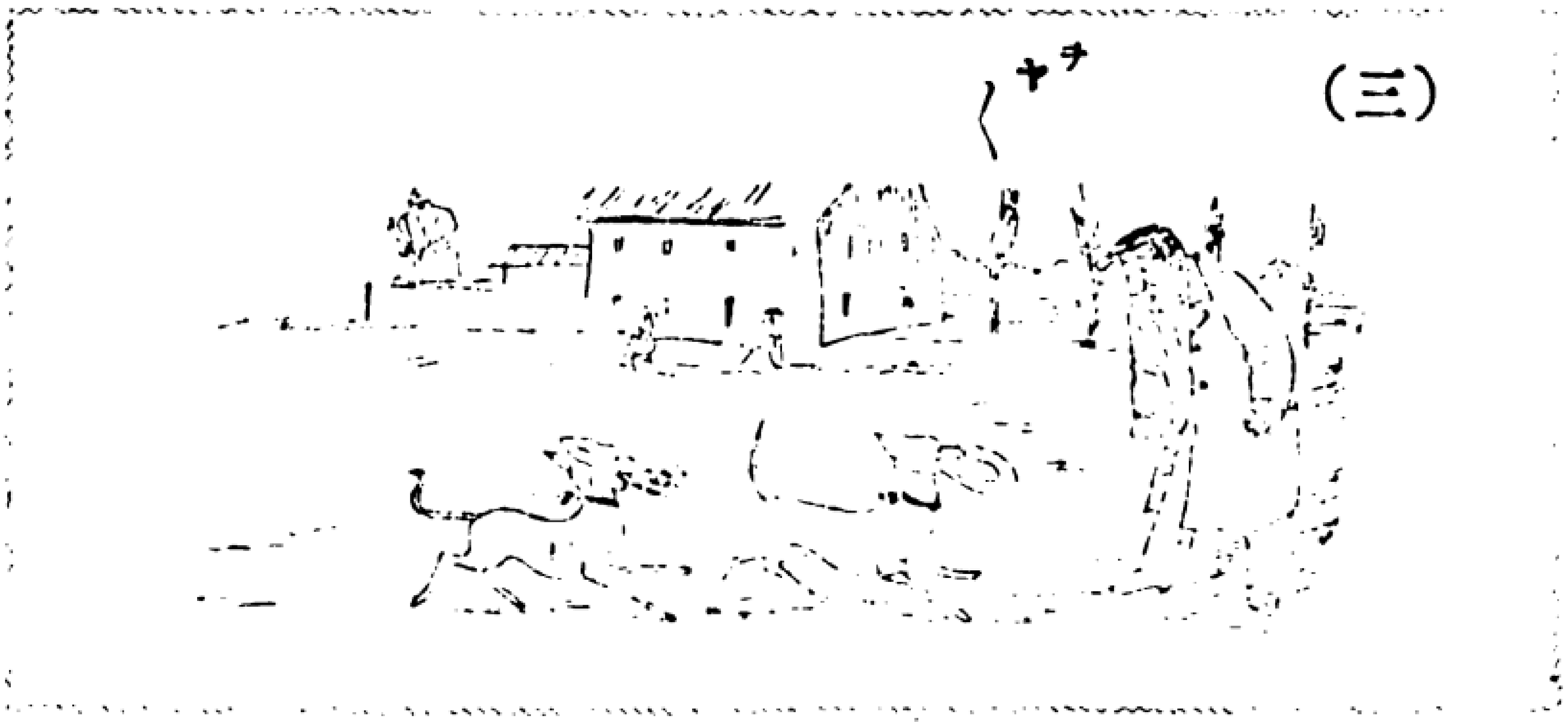
(二) 此處へ



二つの犬に持ち來よと命ず

犬は則ち二つにして持來れり。

（三）



今の政黨は總理時あつてか然り。

年國內で最も美しい男と女を一人づゝ撰で結婚させて面の美しい種族を絶やさない様にした事があります。

骨格の遺傳

兩親が身丈が高いと其子も高くなると云ひ頸も手足迄も父母より遺傳すると云ひます而し身躰の外形即ち頭とか手足の形抔は大抵父親によく似て身躰の大さとか氣質とか云ふ所は重もに母親より遺傳するものです顏色も矢張其通りで兩親の色が白いと其子は白いです亦一人が黑くつて一人が白い時には其間の色の赤子が生れるそうです其他遺傳の事は色々ありますが餘り長がくなりますから後に申しましよふ。

きよめぬ庭

酒落齋主人

其五（下）

救助の天使

「どうか此所へ」、との驛長の聲と共に、客車の戶は開かれて、一人の旅客入來り、兩人に對ひて、いと慇懃に會釋なして、側に坐しける。兩人は一時に太やかなる、溜呼吸とか云へるものなして、長く擔ひける重荷を、そが肩よりとり降したることゝちしければ、入來りにし旅客を、いたく尊ふとがりて、そが疲勞と睡氣との爲に、いと重やかなる唇と舌とを、つとめて少許動しつゝ、何事にや、己等にも解し得がたきばかりの言を、口の中にて云ひけるは、彼の旅客への、挨拶にもやありけん。されば兩人は實に心落居て、切りにそが救助の天使を、あがむるなる可し。「今はやいかするとも、彼いかに大膽なるも、他人の此所に在らん限りは、剽盜人殺の如き、暴き事はせじ、此上は、實に安心なして、睡る事を得可し、漸くの事にて、彼の大厄難を免かれ、かゝる芽出度事はあらじ」と云ひ合したる、如く、兩人は心に問ひ、心に答へ、今まで張詰たる心の、一時に弛みしことなれば、今は、殘酒かけられし、鍋の中の鰌、モルヒチの効力ありし、痙攣の患者、深き睡魔に襲はれて、鼾の聲、高々と、復た覺む可

くも見えざりける。

＊　＊　＊　＊

兩人の旅客等が、自然ら目を覺せし頃は、夜既に明けて、金烏高く昇りたるときにて、互ひに指もて眼を擦り、やうやくにして、欠伸一つ二つなしたれば眼中に潤出でゝ、物見る事も出來て、外の方を詠めたるに、只一面の銀世界清く廣きのみ、他には眼に觸るものもなかりし。此所に始めて昨夕の事共思ひ出し、他の人々はいかゞせしにやと、ふりかへり見けるとき――思はず顔と顔とを合すれば、此なん日頃互ひに、親しく取引どもする、仲間の商人ありければ、今は互ひに會釋なして、そが旅行の目的、さす方など物語り、實に値遇の不意ありしを、かたりて悦び合へり。されば、昨夕の事共、思ひ出したるに、此の近しき友どちが、知らざる儘に、疑ひのみして、それが爲、能くは得睡ざりしのみならず、生命まで危く覺え、彼の一人の救助の天使が、入來りしに依り、始めて厄難を免かれたるこゝちせられて、睡入りし事ども思ひ出せば、かゝるおかしきことの、世にも再度あらんかとて、腹抱へん許り笑ひ興じたる。さるからに、兩人が互ひに、心に思ひし事共を、隔なく談り合ひたるほどに、其が考へのいとおかしかりしに、又たそが感じの恐る可きほどに、強かりしなど、云ひ出ては、笑ひのゝしり、若し此談草を友達が集會の筵にて、談りたらましかば、いかにおかしきことならんなど、切りに打興じて、どよみ合へり。

こゝに笑ひも、談草も、一先づ終りを告げんとせし頃、驛長は入來りて、兩人にさす方のステーションに、着きたる旨を告げければ、兩人は急ぎ立ち上りて、前きに側に置たりし、荷物を取らんとなして――思はず兩人は、互ひに顔を見合せたり。兩人が手荷物は、何時の間に失せたりけん、餘波もなく消えぬ。さらばとて、彼の救助の天使の方を見やるも、彼も亦た、何地行きけん影だにもなし。兩人はひたあきれにあきれたるまゝ、一言だに云ひ出す者なく、悲しさとおかしさの、一時に迫り來て、思はずヒタと、手をなんうちける。

しばらくして、やうやく元にかへりし如く、始めて辭と思ふほどの辭なん云ひ出たるは――救助の天使――と云へる、一言になんありける。

好忠告　僕の醫學士は僕に全く酒を飲むことを禁じたがまた其上に煙草も吸ふてはならぬと云ふた。

朋友。そんなら君はかの醫學士の所へ往つてみてモウヘメいいに。

小説

野邊遊び（第一）

優香里

おつかさん私はなぜ弟がありますまい、明日摘草に行く時に仁田のおよしさんは五郎さんを連れて行くつて今日御話しでした、また富田さんは山上さんと妹だの弟だのをどつさり連て行くと云つて居らつしやいましたしお隣りのおきよさんは私よりも二つ年が下ですのに妹と弟を二人持ていらつしやるし毎日〳〵あの赤坊を抱てあやしたり、背負して遊ばしたりして居らつしやるノニ、私は去年おぢさんに買て戴いたアノ人形ばかりしか抱きはしません、それに人形ではあやしても笑ひませんもの、泣きもしないノ……破れたから。摘草に行くのはよいがどうしましよう多勢の方がいらしつても、何だかさむしひような氣がして一人で摘草をするようでしようチー、芹でしようか嫁菜でしようか土筆でしようか、何を摘むノデショー、あの八藏の持て居る鎌か何か持て行かなければ摘めますまいチー、そしてあすこは景色がよいし廣いからキット皆さんもいろ〳〵の事をして御遊びなさるに違ひないワ、どんな事をして遊ぶのでしよう。

さすがはまだ子供無邪氣の證據にはすぐ目の前に樂しひ廣い野原や多勢の友達が表れて來ます、今迄は一人子のさむしひ述懐も破れた人形の不平も今は消へて明日の晴着を母が縫て居て呉れる其傍に無造作の坐り方なほも言葉を次て話しかけますが母はうるさいと云ふ顔も見えません、うるさい所ではなく却て時々針の目を止めてがんぜない可愛らしい娘の顔を打眺めて居ました小娘は思ひ出したように、

お父樣は今日いつ御歸りでしよう、今朝御出かけに頭へ付けるリボンを買て來て遣ると御つしやいましたが明日それをかけて行つてもいゝでしようか、エおつかさん。

アーいゝともそして明日は仁田のおぢさんが子供を集めて面白い西洋の遊びをさせるとおつしやつたからキット御前方の氣に入るような事があるに違ひない、けれども餘りお轉婆をして怪我でもおしでないよ。

ソーどんな遊びでしよう早く明日になればいゝこと樂しみで〳〵、　おつかさん今日晩迄にその着物が出來上るノ、エ晩迄に出來るノデスカ。

御覧なもうくける計りダーチ、折角こしらへてあげても若し明日轉でもするとだいなしにしておしまいだろうねえ、

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ダカラ遊ぶ時は芳に上のを取てもらつて黄八丈の下着の方を着て御遊び泥だらけになるといけないから。

そんなら芳が付て行くのですか、花は。

御前ひとりで行けるものカヂ、花は家に用があるもの。

ダカラ弟が欲しひワ、弟があれば獨りでも行けます。

弟があれば御前は姉さんだもの弟の世話をしなくつてはなりません、ソシテ何を御云ひダヂ弟と一所に一人で行けるつてサ、一人で育つとドーモ茫然で困るよだから芳を付て上げるノダヨ。

母親は叱るような言葉しかし顔にはやさしひ笑を顯して居ます、娘は急に立て玄關の方へ走り行きました軈て近付く車の音ソラ御歸りと皆な出迎へに出づる眞先には彼小娘我れこそ家内中に先ての御迎へ一番鎗の功名と云はぬ計りの顔付にて待ちかまへ居る所へ勢よく駈け込む車夫金藏御歸りの諸聲と共に突く楫棒ヒラリと飛下りる主人公の顔を見るより待ちもうけたる小娘は

御父樣御歸り遊ばせ、リボンハ。

ムー、歸るといきなりおみやげの催促か、ハヽア困りものダナー、サー御座敷へ此の帽子を持て行つてお呉れ、芳そのカバンを。

おとう樣私がカバンを持て行きましよう、芳や私が持て行くのヨウ、イーヨ重くつても持てるよ、帽子は輕いからイヤダモノ重い方がイーノヨ。

重い方がイー、ハヽア慾張り者ダナ。

主人公は其儘書齋へ這入り次で妻君と小間使の花も彼方へ行きました、跡には下婢のお芳とかの小娘

お孃樣おあぶのふでざりますよ、今日は大層重ふでざいますから、そして大きい方のカバンですから。

イーヨ大丈夫ダヨ、離して御覽重かァないよなぜ今日はこんな大きなのを持ていらつしつたノダロー、ヨ御離しよ大丈夫ダト云ふノニ。

ソレデハはなしますよ、宜しふでざりますか。

アレ重いこと、持ち惡いヂー、芳や離してはイケナイヨ。

ホレ御覽遊ばせ重いでしよう。

母親は騷がしき儘に再び座敷へ走せ戻りましたが娘の躰を見ていきなりに

何をおしだそんな眞似をして御とう樣がお叱り遊ばすよ。

母の來りしに不意を打たれて持しカバンを其儘にパタリと落

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

せば口金のしまり悪しきためか中なる品物はあたりへ飛び散りました、悪るひ事をした叱かられるダローと思つた心配の顔色は飛散りし品物を見ると共に忽ち消へ失せて例の可愛らしひ笑ひが頬のあたりを——

マーうつくしひこと、花替のような花が、芳や御らんお母様御覽遊ばせ、薔薇の花が長くつながつて居ます、イーエ薔薇計りではなくつてよ、菫もあるし、アラ櫻も、梅も、オヤ菊の花も、マー奇麗なリボンも。

○浮世の波間（續）　波月子

滊車の横濱を發するだに余はこれを知らざりきその川崎ステーションに達せんとする頃滊笛一聲忽然余の夢を破る、乘客僅かに六人彼の小女と老人は既に在らず、恐らくは余が睡眠中横濱ステーションに下車せしなるべし、余は唯だ妹とよ子の病勢を氣遣ふため其の人々の居らずありしも敢て意となさず、睡眼を開て車中を見まわすに、右の方に斜に余と對坐する一紳士あり、黒のモーニングコートに縞のヅボン穿ち胸のあたりに金鎖の太やかあるを輝し山高の帽子に金弦淵あしの目鏡をかけ馬耳羅の葉巻煙草をくゆらせ黒皮の革嚢を傍に置き紫檀に銀の持手付けたるを兩足の間に挾み兩手を持ち添へて頤をその上にもたせ何事をか思案するものゝ如し、其人常に顔を背け居れば容貌は定かに認め得ず滊車の川崎ステーションに達するや亦一人の乘客あり黒七子の羽織に糸織の上着高き駒下駄の歩に下着の古代更紗を蹴出し博多の角帯にこれも金鎖りをしだらあく巻き付け蠟綾の蝙蝠傘を杖とし茶の高帽子を少しく仰に被りて入り來り余の顔を打守り軈て傍に坐せり此人酒氣紛々余をして思はず鼻を掩はしむ、時に先の紳士は今起あがれり、後の紳士其人を見るや帽を脱して

イヤ山田さん、暫らく何處へ、エ濱デスカ

先の紳士は答へたり

コレハ田邊さん、其後は相變はらず御壯健て

余は山田と呼べるを聞くや聽神經は敏捷となつて不思儀にも兩人の應接に注意せり是其如何なる理なるやを知る能はず、

イツモ元氣のよい山田秋策先生が今日は大層鬱で居るデハないか、酒好きの君がめづらしく今日は、今日に限て……

余は駭然たり秋策とはこれ余が學友今は余が敵嘗て大學に在りし日余をして終身忘るゝ能はざるの恥辱を與へたる人なりとは。

寄書

春日の感

在柳河　柳溪女史

春よ！汝は如何なる塲所より來れる乎思ふに氷柱凜冽朔風肌を裂く天地の間より來りしならん？妾未だ汝の溫容を知らず汝の形貌を見す爭でか汝と倶に相語ふを得ん左は去り乍ら妾や汝の氣息に觸るゝ時去年の苦艱を忘れ憂愁を忘れ唯た餘念なく汝が感化し去る廣き天地を打眺めて慕はしくぞ想ふなれ、嗚呼寂寞たる荒れ野、痩せて色なき遠近の山、皆汝の裳に觸れて宵を吐き翠を横たへ嬉しく耻らふ姿を模糊たる烟霞の下に隱くす汝ぢ動く時軟風を起して草木の葉末を搖るぎ汝が慈愛の溢るゝ時萬斛の涕……雨……を濺きて紅白の唇を開かしめ、梅花は笑ひ、海棠は泣き、梨花欄外月照らして笛の音色も最と面白く聽へ詩人をして春宵一刻値千金と謂はしむ、日暖にして門巻の童子紙鳶を操り風和にして樓臺の美人簾を捲く、楊柳の月、杏花の雲、一は城角より登り、一は墻陰に留まる、鞦韆の影靜かに動き、金漏の聲寬やかに透る、翩々たる蜂蝶は香より香を追ひ、花より花に移り、鸚鵡は朱門哥舞の伎を學び、嬌鶯は綿蠻として樹上に語る、波驚かずして錦鱗躍り、日麗かにして野獸眠る、此時や才子佳人に愁なく、笙を奏し琵琶を彈じ洋々として樂しむ、久しく相結んで解けざりし相互の怨仇も釋然として解け、情交濃やかに其間に駸き來り、商估は浮利を忘れて謳ひ、農夫は貧を忘れて踊る、靑衿は活潑に動き、紅裙は綏如として歩す、何の媢嫉かあらん、何の妬忌かあらん、將た何の憂かあらん、嗚呼春よ汝の德は何ぞ斯くの如く廣大なるや、天地間の物汝の氣息に觸れて慍を解かざるものなく、笑はざるものなく、樂しまざるはなし、首を回らせば、古へより幾多の英雄世に出でゝ、世は怨み、世は憾けゝり、學者星の如く聚り、論士雲の如く起りて、世は益々喩しく、政治家朝野に溢れで私怨相結び、僞詐行はれ、人心危く、道心微なり、嗚呼春よ！汝と肩を駢べて萬物の慍を解き洋々和樂せしむるものは文豪乎、政治家乎、釋尊の德乎、抑も又耶蘇の深愛耶。

黑川眞賴氏の遊女の話の筆記を讀む

叢菊野史

本月九日黑川文學博士は學士會院に於て遊女の話を演説されたり其筆記を拜讀するに本邦に於ける娼妓の由來を最と懇に說かれたれば廢娼存娼二派の論者共に之を參考とせば大なる利益あらん其の引證精確にして流石に和學の大家たるに背かず其の記事に於ては一切感服の外無之候唯だ結末「娼妓の存廢に就ては利害得失果して何れに在る乎を知らずと雖も今假りに之を廢す可からざるものと定むれば余は遂に遊女の風儀を改良して大に高尙の域に進ましめんとを望むなり而して其の之をして高尙の域に進ましむるの方法如何と云はゞ余は將に遊女學校の設けあるべしと斷言す」との一言は如何にや娼妓なる者は既に賣淫を業とする以上は其の風儀を改良するも益なくして害あらん遊女學校なぞ設けて學問技藝に達せしめば世人が之を慕ふの念大に起るべし是に至ては娼妓と交るを大なる榮とせん今日に於ても本邦娼妓の風儀左程に惡からず外國の娼妓と較ぶれば實に雲泥の相違あらん其の弊や本邦人は娼妓を蛇蝎視せず動もすれば之に昵近せんとす歐羅巴に於ては娼妓と云へば實に恐るべき大惡人にして且つ惡疾近き難き者のみなれば唯だ其の名を聞くのみにても人、色を失ふて逃れんと欲す故に盜賊掏兒賭博者の如き兇徒の外は妓樓に遊ぶ者なし夫の良民の如きは罪惡の巢窟として皆な之を避くと云ふ然るに本邦にては娼妓も良家の女も賣淫の一事を除けば左まで異なる所なく智識の點に於ては娼妓の方反て通常の婦女に勝る者あらん是を以て世人之を賤むと甚しからず隨て妓樓に遊ぶを耻ぢざるなり若し之に教育を加へ之をして高尙ならしめば娼妓益跋扈し世人益之を慕ひ益之と交るを榮とせんサレバ遊女學校の設けは先以て不賛成なり若かず娼妓をして非人視されしむるには左なき時は上流士人が之を嫌はざるのみならずして見識なき婦女は其の仲間入りを耻ぢざるべし縱ひ一時に廢娼すると能はざるも責めては之を賤むべしと云ふ感覺のみにても印し度者なり併し黑川文學博士が博愛の御志は感服仕候。

小品漫筆十種。

駿台客窓　渡邊靑蛍小史

其一。妻君の頓智、

日耳曼史に曰く（ヘンリー）の弟（ウエルフ）はウルテンブルグのウエースボルグ府に入り廓を閉て堅く守りしに敵將（コンラド）大兵を以て之を圍みけれども久しく支持して容易に拔く能はざりしが數日の後力盡て降を請び且つ約して曰く府の中

男子は其生死一に貴命のまゝなるべきは無論なれど婦女のみは一切之を殺すことなく又た毎婦その力に從ひ其の所有品の中にて最も貴重なる物を齎攜して出づるとを得せしめよと(コンラド)之を聽し既に印を契卷に捺しければ(ヘンリー)の夫人乃ち廓門を開き(ヘンリー)を負ひ他婦亦た各々其の夫を負出でしとぞ

其二。ブック

古代日耳曼の文字を(ルーンス)と名づけ諸部落皆な之を知らざるはなかりし而して其の文字を書するには筆を用ず刀を以て之を石若くは木に彫せり此の木は專ら黄楊木を用ゆ日耳曼の古語此の木を稱して(ブック)と云へり方今日耳曼、英吉利兩語中書籍を稱して Buch Book(ブック)と云ふは實に之に基せり。

國民悉皆醫者となれ

赤十字社内　岩崎駒太郎

醫師の患者に對するや病の發源、經過、現症、及將後の正變を考察し常人は意に介せざる程の輕症たりとも醫師は敢て忽視せず若し又稍重難なる症に至ては先蹤にも問ひ同業にも謀り又は一般の實驗に徴し或は醫書に正して根限り腕限り知慮方法の續かん限りは寢食をも忘れて救治の方法を探求するとは醫師の普通の本分なりとす此際に方ては殊に一點の私慾を夢想せず然後術も名利も上達するなり。

一個の實業家例へば農工商の如き類凡て勤勉の精粗に依て直接に損益を感ずるものは稍々醫師の患者に對する精神を以て熱心に其職業に勉めり一攫万金の豪商一筆千金の畫工の如きも唯不撓の精神ありてこそ實に此に至れるならん此腕限り根限り命の在らん限り私慾を去り小智を棄てゝ一意に我事を務むるの精神を稱して世には斃れて後止むの精神とは謂ふなり何人が何事を爲すも此精神なくては己れの希望も遂せず利益も得難からん夫の虎穴に入らざれは虎子を得ずとの古言は虎子を得んが爲めに我身を棄ると謂はんよりは大に我身を愛重するが故に危き虎穴に入ると謂はん方一層面白し即ち斃れて後止むと同じ意義にて何れも我身を愛するの極度と謂ふべし

事の大小又は身分の貴賤を論せず男女を問はず心は同じ人の心ならずや然るに事に當て大小貴賤の區別をなすは其心を二にするものと謂へし例へば十圓の月給取でも斃れて後止むの精神なければ百圓の月給は取れず車夫なり土方なり此精神あるものは親方となり資産家となるもの其類古今に少からず或人曰へり高位顯官又は或る名譽の事業を擔任するもの即其身相應又は身に餘る大事業の爲めには斃れて後止むの精神を以て其身を犠牲に供するは固より望む所なれども僅か十圓の月給又は衣食學資に迫て一時賤業に從事するものが身を殺して十圓或は賤業に供するは豈に至愚に非ずや身を輕んずるものに非ずやと是れ甚た過てり十圓の月給は其恩何如ぞや賤業の反響其及ぶ所幾何ぞや即ち一家の生命を維持し又は一身をして難路を通過せしむるにあらずや凡そ恩の大なるものは生活に如くはなし既に生活の恩を受けながら報るに生命を以てせざるは恩知らずの曲者なり若又十圓の爲めに身を殺すを恥るならば身を退くより外なからん不幸にして身を十圓の地に置かば又十圓に死するの不幸をも取らざる可らず古臭き例ながら忠臣藏の平右衛門の言ばに身分は輕ひ足輕でも御恩は同じ主君の恩とか言へり去れば輕き足輕の身分を以て重き國老が君に報ゆるの精神と同じく遂に今古の士女をして血泣せしむるの義擧を遂けたり平右衛門は人の嘲りを恐れしに非らず又人々誘挍せられし者に非ず唯我事を我事とし誠意斃れて後止むの精神が此結果を生ぜしなり如し利益の點よりして之を言へば大に身を愛重するが故に身を死地に置きしなり身を死地に置きしが故に其身をして國老士大夫と相輕重なからしめたり是實に大に我身を愛重して實料を得たるものなり虎穴に入て虎子を得たるものなり抑々虎穴に入らざれは虎子を得ずとは是れ山師の口調にあらで實に君子の履行すべき誠實の語と悟らざる可らず醫師が病者の苦患を苦患して寢食を忘るゝも平右衛門が身を忘れて義に就きしも誠意なり誠意の極は斃れて後止むの精神となり更に又進化して虎穴に入る、然後術も進み名利も遂し貴賤位を異にし輕重所を易へて虎子は我懐中に飛入らん故に人々其身を愛重せば先づ其身を苦めよ。

人々請ふ醫者となれ醫者には所謂横着心なし此病人には如斯せざる可らずと雖も今日は面倒なれば明日にすべし此れは速かにせざれは或は不利なるべしと雖も後刻にても大害は有るべからずとして其爲すべく爲す可らざるの務を怠らず何となれば一刻一日を前後すれば忽ち傷病者に變を生ずるを恐るればなり然而して醫者に非ざる事務には利害の來る稍々遲緩なるのみならず殆ど目之を見る能はざる程なれば人多くは等して爲さず又は一時一日を遲延して不便不利の來るを知らずして効果を收むる容易ならず抑此世の事務は大小顯微表裏輕重何れも衛生方救療竝に非ざるはなし故に人々誠意斃れて後止の精神を以て一事一物に其智慮心力を盡さんには此世は常に快樂なる健康躰を保ち其身は永く榮譽なる生活を得ん若し然らずして私慾小智に制せられ職務に不親切なるときは此世は亦常に不幸なる病苦の中に呻吟し其身は又恥辱ある生活に終らん因果應報の理は佛家特有の語にはあらず。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

舌の御馳走

在三田　上田鴻山

往昔ヤンサスと呼へる學者ありけり、或日の事なりしが、嘗て親しく交れる朋友を饗應せんとて、市場に在る最も貢き物をば用意する樣其僕イーソップに命じければ、僕は心得たりと早速何の處よりか一山の舌を集め來り、之をば色々と異なる風に料理し置けり、ハヤ饗應の時刻と相成り客間に運べる料理を見るに、こはソモ如何に、料理の種類は異なれども品は同じき人の舌、一同互に顔見合はせ一時言葉もなかりけり、主人痛く怒りて曰く汝は余がくれ〴〵も市場にある物品中にて最貢物を買調へよと言付たるを忘れしか、僕はいらへの聲靜かに何さて仰に背きしぞ舌よりよきもの世に幾何か有之べき、舌は人間交際の紐又學問道理の鑰には候はずや、之あればこそ都府も基礎おかれ、城池も築かれ、政府も成立ち、事務も捗取り候とも、主人成程と手を打ちたゝき、げにや汝の言ふ所一理あり、然らば明日また此の同じ方々と會食致す存念ゆへ、今一度市場に參り此度は一番惡しき品をば購ひ料理し置けと云ひ置きて其日は詫びつゝ友を返しやりし。さて翌日と相成り主人客を引て例室に到りしに、何ぞ圖らん、前日と寸分違はぬ料理の數々目前に列しあらんとは、主人怒りの眉逆立ち大喝僕を叱て曰く能くも余が命令を蔑如するものかな、今日の饗應には最も惡しき品物をば用意せよと言置きしに何とて昨日は最も善き物なりと言葉巧に説付けし同一物をば出せしぞ、其故聞かん如何に〳〵と逼りしに、僕は神色自若として答へける樣、御怒りは尤ながら心を靜めて聞賜へ、抑も舌は最も貢き物なると等く又最も惡しき物なり、舌は喧嘩爭論の機械となり、公事訴訟を引起し、分離戰鬪且つは又詐欺讒謗の官能に候ぞと。

是唯一小話に過ざれども僕イーソップの行爲は吾人大に以て教訓となすに足るあるを信ず舌は僧僅々三寸長の肉片のみ然れども之を用ふる方法の善惡は小にしては一身の禍福大にしては國家の利害に關する事既往の史に徵して歴然たり吾人豈みる所なかるべけんや。

○仇人の口善惡なきを嘆ちて

淺草橋のたもと　章子

道はすたれ、德は破ぶれて、人の心はいさけがる、盡きぬは愛、くちぬは眞理、きよき操ぞ生命なる、人は知らぞ、神の御前に、かたき契りの、愛の友、君の爲めには、君の爲めにに、なごかおしまん、身も魂も、われをしらぬ、かしまし人の、善惡なき聲ぞ、うらみなる、いともうし、いともうらめし、あじきなき世と、かこちぬる、されごたのし、われは忍ばん、ほさぬにまさる、濡ごろも、とき來ぬれば、榮の日もこん、さらば晴れなん、うきくもゝ。

宿所と實名を記されば載てはいたゞけませぬか内心は誠にお耻しくてそれ程の勇氣がありませぬ女學子先生のよきお取り計らひに任せます　恐惶頓首

編者評。人の疑は吾を殺すに足らず、吾もし耻る所ろなくば、光明は其胸の中に照れり、君决して心を落し玉ふ勿れ。

開書

女學雜誌に與ふるの書

此開書の欄は互ひに直接に勸告質問などするの便に供へまする處ろで、讀者中より世上の何人に對しても又た編者自身に對しても思ふまゝを申越さるゝやうに希望する所存です、此處に左の一文章及び之に類するもの三つ四つを揭げまするに付ては、編者は色々と思案しましたので、何んとなく恥かしい樣にもあり又得意になるやうで恐ろしくもあり、决心し兼ねて編輯局の相談に掛け遂に揭ぐることと致しました、之を載まする主意は、何卒忠告の文を更に多く頂だきたいと云ふ思ひですから、此后にも御遠慮なく開書を惠まれんとを願ひ升、シテ忠告の御文は無名にても差支へありませんが、お賞め下さるには必らず實名を記して載だきたく存じます、左には雅號の分一つ實名の分三つ四つを追々揭げますが、向后送り玉ふときは可成實名を公けにせらるゝとを同時に許して載だきたく存じ升。　（編者白）。

謹て我が愛敬なる女學雜誌記者足下の左右に寸楮を呈し奉候生は今日主人を有する一小僧に有之明治維新の後三年を以て始めて人間世界の空氣を呼吸し初め歳十五を閲するの間極はめて不幸なるホームの翌に人となり生の兩親は學文てふ者の必用にして欠く可らざるを知りつゝありたるも家貧しく剩へ家族の多く有しとに制せられ生等に滿足なる教育を授くるべき力なく僅かに父が幼き時より學び得たる處のものを以て嚴簫に生等に分ち與へたるのみ小學の課程さへ確

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

々に歷む事をも得ず愚かながらも多少精神の穎敏なるの時即ち生が最も感化力に充てるの時最も記臆力に富めるの時は茫乎さして眞に寤寐夢中に費し去りぬ然れ共生が今の主人に事へてよりは少しく運命の緒を開き衣粗なるも寒きを覺えず食甘からざるも饑ゑるを知らず今日に至りて餘暇に文學を解し或は僅かに文章をも綴り得るも盡く主人が慈善の賜にこそ有之候既に此の如くなれば生が學理に淺薄なるは固より言を要せざるも只其因て來る處生をして事物の觀念に迷ふ事愈々多からしめ世間幾多の學生が揚々さして學事に汲々しつゝあるを羨望しては却て己れも彼等さ同じく明治の明世に遭遇したるの不幸を歎じ或は過去を追想し未來を懸念し朝三暮四に雜多の感情は交々腦裏に蝟集し來りて坐ろ憂悶の淵に逍遙ひ候事も屢々御座候。

斯る不愉快の境遇に暮し候も特に生をして其不滿の心を柔らげしめ其落膽の意を勵まさしめ或は喜ばしめ或は樂ましむるもの獨り貴社女學雜誌有る而已に御座候嘗てより生は貴社雜誌の獨り女子のみに止らずして生等青年輩にも其利益を分たるゝの殊に最も多きを聞き嘗て一昨廿一年の中頃試に其壹部を購ひ見しより以來今日に至る迄愈々購ふて愈々之を慕ひ生の女學雜誌に依て感化され女學雜誌に依て悟て女學雜誌に依て學び得たる處のもの蓋し夾して少々に非ざるを深く自ら信じ其が主なる記者足下の淸德を慕ふの念亦夾して今日に候はず既に幾度か不敬を顧みず書を呈して其厚惠を謝せんさ企て候へ共未だ一面の識だに辱ふせざるの足下に對し余りに事の不敬なるを自ら咎め且は萬一左右に接して親しく訓誨を受くるの時機もがなさ望外の希望を抱き今日まで躊躇致居候然れども生が感謝の意を表せんさ欲するの情は益々切にして遂に禮を忘れて一片の丹心を吐露し記者足下を敬信して措かざる事の詐りならざるを證するとの巳むを得ざるに出てしめたり嗚呼足下よ足下の寬仁を以て生が微衷他意なきを察し案務堆積の暇をかすめて哀れ一顧の榮を賜はらば復た更に言ふ處を知らず恐惶

三月十日　　銀坐寓一小僧　波南生　頓首

女學雜誌記者

巖本善治樣　御左右

煩忙の余暇亂暴に認め下し候に付字句曖昧意通徹せざるヶ所多く御座候へば偏へに御推讀を願上候殊更不敬の段は禮節に嫻はざるの致す處さして吳々も御寬宥の程願まほし候

交詢

●三田四國町鶴の屋主人　鳥居坂に於ける廢娼演說中小生が云々せしとに付てのお尋ねはお答へ參らするも殘念の樣に思ひ升、實に外國人をして斯く直言せしむる迄に我國の道德は廢りしかさ坐ろに慷慨に堪へず是非さも一層勇を皷して此運動に盡力せねは成らぬさ決心いたしました、其時には辭ばを畝なりさするなどの感じは少しも無く只管ら歎息のみ致したゞ〳〵悲しく存じて居ました、夫故當日の筆記は悉とく雜誌に掲げます、願くは同感同憤の士を一人も多く得て一日も早く外國人より斯る恥辱を得ないやうに致したくさ夫巳を熱望して居升。

●辨敬生　マコウレー、スペンサーなどの油畫肖像をば何處で買へるかさのお尋ね、差當り存じません、又御座り升すまい、丸善か橫濱のケレー商店に注文なされば宜しひでしやう。

●一女生　明治女學校は月謝が一圓八十錢より七十錢迄色々あります、月俸は生徒が自賄いたすので大抵三圓より三圓四十錢です。

●上州一女生　通信で和歌をお習ひなさりたいには鈴木弘恭先生も御敎授でしやう、又池袋淸風氏の東京女社は本社中に事務員が居ります、加入あれば歌の點削を致します。

●高橋鐵君　天保年度の人さ明治年度の人は躰格が餘程違ひます、格外に小く成ました、目下の小學敎育にも躰育がまだ十分さ思へません、モット敎授時間を減ずる方が宜しひさ思ひます、學者達は兎角躰が弱いです夫は運動の足らぬ故もありますが一つには滋養が足らぬ故です、スペンサーも痛論しました樣に世が業劇に成り學問が過度に爲るさ食物の養ひ分が不足の割合になります、今日は最早菜根主義ではイケません、働らくものは其糧を得て十分美食せねば成りませぬ。

●氏家ゑき女　大和郡之助氏のお望み（本誌百九十七號にあり）の如き下宿屋を設くる場所府下何方が第一便利なるやさの問ひ無論本郷神田邊が適當でありましやう。

●鈴木辰太郎君　禁酒會は麻布鳥居坂平岩愃保氏會頭の矯風會中にもあり、婦人矯風會中にもあり（之は赤城元町小島濟子へ申込）、又本村町津田仙氏方の禁酒會もあり升。

時事

〇勝海舟翁

其子を知らんには其友を見るべし、其世を知らんには當世重んずる所ろの士を見るべし、吾人は近頃ろ新島襄君が一世より惜しまれ、横井小楠の傳が文學社界に持囃さるゝを見て大ひに喜こぶとあり。勝海舟翁を尊重する者の近日漸やく增加するを見るは亦た喜こぶべきの一となす。人或は翁を評して奇才となす此れ尙ほ翁を知らざるもの也、思ふに翁の品格を降すものは其や〻奇才に富めるの點にあるべし、然れども翁をして能く翁たらしむるものは實に其誠意誠心あるにある也、每日新聞が國會第一期の政治意見に關し翁の意見を叩きたるとき、翁の答書中に云く、

議論を後にし實際に適候樣に存候其實際は誠實心を基礎と致し細屑に不涉、大躰に御着目可然歟

翁は老西鄕の友、小楠の弟子、山岡居士の敬兄あり、三士既に逝き、今唯一つを殘す、世は當に之を優待すべき筈也。

〇福澤諭吉翁

倫理敎科書を讀むの一篇は福澤諭吉氏が前年森前文部大臣に答へたる書狀なるよし、此頃時事新報に出でたるを見るに、

抑そも本書全面の立言は人生戶外の公德を主として家內私德の事には深く論及するを見ず然るに鄙見は全く之に反し人間の德行を公私の二樣に區別して戶外公德の本源を家內の私德に求め又其私德の發生は夫婦の倫理に原因するを信ずる者なり本來社會生々の本は夫婦に在り夫婦の倫紊れずして親子の親あり兄弟姉妹の友愛あり即ち人間の家を成すものにして之を私德の美と云ふ內に私德の修まるあれば外に發して朋友の信と爲り治者被治者の義と爲り社會の交際法と爲るべし蓋し社會は個々の家より成るものにして良家の集合即はち良社會あれば德敎究竟の目的果して良社會を得んとするにあるか須からく本に返つて良家を作るべし

之れ至明良善の文辭にして吾人が兼ねて主張する所ろなり、翁すでに如此く信ずるときは、連接として亦次の如く信ぜざるを得ず、

良社會は良家より成る　良家は夫婦の倫正しきに因す
娼妓公許は姦淫公許也　姦淫公許は夫婦の倫を大亂す
故に娼妓公許する時は　良家なく又良社會なきを以て
廢娼は只道德論に非ず　實に此れ社會經世の問題あり

吾人は今の政治家の甚はだ自省せざるを憾むものあり。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○文部省中に其人なし

同前の書中に亦た次の一句あり、

凡そ德敎の書は古聖賢の手に成り又其門に出でしものにして主義の何如に拘はらず天下後世の人が其書を尊信するは其聖賢の德義を尊信するが故なり……今日坊間の一男子が奇言を吐くか又は講談師の席上に辨じたる一論が偶然にも古聖賢の旨に適ふとするも天下に其言論を信ずるもの無るべし何如となれば其言の尊からざるに非ざれども德義上に其人を信ずるに足らざれば也倫理敎科書は文部省撰とあり書中何人の手に成りしや其人は果して完全高德の人物にして私德公德に欠くる所なく以て天下衆人の尊信を博するに足るべきや輸吉に於ては文部省中に斯る人物ある可きを信ぜざるのみならず日本國中に其有無を疑ふもの也。

此言極めて佳し、總じて敎育の順序は經驗より格言に入るものあれば、人を敎へんとするには先づ之に經驗せしめ而して後ち格言を敎ゆるとを要す、特に道德の事の如き專ぱら實踐を旨とするものに至りては就中然ると也。左るを私に哲學上理論上の格言を製造し之に敎ゆるすらおかしきに、况して敎場には此格言を敎へ乍ら、敎師の實際には經驗上に於て其の

悪品行を敎示しつゝあるに至つては、如此き德育の價値半文錢にも當らざるは無論の事也、

○不德敎師

智育を行ふの敎師には能く其智術を噢分たるものを要す、何んぞ獨り德育を行ふの敎師に至つて人語の鸚鵡にして可なりとせん、擲生は曰く家を美にせよと、而して其人は昨日細君の頭を擲りたり、先生は曰く、須らく忍耐すべしと、而して語未だ畢らず乍ち癇癪を起す、夫れ如此くにして安くんぞ能く人を敎えんや。滔々たる今の不德敎師に倫理敎科書一冊、論語一部を持たせ、夫を講義するとにて德育の能事畢ると思はゞ、天下の愚何ものか之に及かん、

○學校と敎會

今の德育弊を救ふに一方あり、即はち之を宗敎家に托するとなり。然れども學校と宗敎と密合し學制を以てむりに信仰を強ゐる如きとありては、之を信仰の上より考ふるも與とならざるが如く敎育の上に於ても大ひある弊害あるべし。故に學校の書生をして自由に各宗の說法を聽聞せしめ、其擇ぶまゝに之に歸依せしむるを善とす。疇昔加藤弘之君は、學校內に諸宗の僧侶敎師を引入れて自由に說敎せしめよと云へり、吾

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

く人は當分此處置の過激なるに賛成すると能はず、寧ろ學校の書生をして自由に出でゝ聽聞せしむべしと云ふ也、

○高等師範校

之れ今の徳音弊を救ふに効あるのみならず、信教の自由として當に然なすべきの筈なり。然るに此頃高等師範校女子部に三四の基督教女生出來せしとて、教育者中に八釜しく論じたるものあり、如此き教育家は抑そも何事を憂ひ何事を希望するや奇怪に堪へざると也、今の學校幹事なるものは人の自由信教を妨たぐるの權ある乎、苟くも若し如此き處置を爲すとあらば吾人は國民として決して容赦し置くと能はざる也、此一點に關しては好し神道にても佛教にても儒教にても基督教にても、其の何の宗教たるを問はず人の之を自由に信仰せんとするを妨害するものあらば吾人は道の爲に之を棄置くと能はず、夫れ今の學校は當に宗教と別立すべき筈のもの也。

○序文、目錄、小引

國會の開設も間近となれば、諸新聞紙上に政紀政綱など云ふもの續々として現はるゝに至れり、書物には開卷第一頭に序文あり、次に目錄あり、次に小引あり、而して後ち本文に入るとなるが、好し本文を講破し讀畢るとも之を實行するには隨分難義なるもの也。吾人は今日に於て多くの政黨が續々簇生するを憾らく思ふに、序文目錄小引丈けにて又々意見を異にし同志者愈々四方に分裂する如きとありては一層殘念に思ふ也、初期の國會には東に政府、西に人民と云ふ如く立分れ、滿身の力を以て兩々相撲たざる可らず、烏鷺の爭ひは到底小僧の利となる、鑑みざる可らざる也。

○日曜日安息の事

吾人は必らずしも宗教上より安息日の事を言ふものに非ず、寧ろ經世の一要則として、人類安全進化の一大眞則として之を嚴守せんとを主張するもの也、近頃ろ巴里に開ける日曜日休日の事に關する大會議に對して、グラッドストン氏答書を寄せて云く

予が社會に出でゝより今日まで已に五十七年間絶えず事務に從事し强壯にしていまだ左程の老衰を感ぜざるは主として此原因（安息日を守る事）に歸せざるを得ずと。

殊に人民職業の性質いよ〱規則立ち益々機械的に傾むくの世となりては、一週一日の安息は身の爲にも靈の爲にも大切なる事あり。

廢娼記事

島居坂演說　去土曜日島居坂にてイビー氏及巖本が出席したる演說會は中々の盛會なりき、特にイビー氏演說の末段に至り、外國人として日本の不德を觀察したる條々を一々容赦なく直言せられたる時は、聽衆一同慷慨して是非とも廢娼して恥を雪がれば成らぬと覺悟せしもの多くありき。

壯年義會の演說　を本日開く答なりしが更に一週延し、大江卓、內田定治、大內靑巒、横井時雄等の諸氏に演說を請わんと用意中にて、大江氏其他は既に承諾せられたる由なり。

上毛靑年聯合會　の大懇親會昨廿一日前橋に開かる、佐々城豐壽、潮田ちせ、壯年義會の寺崎泰吉の諸氏及び巖本も參會したり、委しくは次號に揭ぐべし。

存娼收賄の報　群馬縣會議員中貸坐敷より賄賂を取りたるものある由風評せしが十六日反町覺哉早川樵三郎の二氏より建議せる條項中左の七事を含めり

一、確乎たる證據あると。二、貸坐敷の中にも證明せしものある事。三、二氏は正義の爲め能く迄盡力する决心の事。四、收賄金額は二百圓授受の場所は東京駿河台關根屋なる事。六、其れは昨年十一月縣會開會中の事なる事。七、收賄者は三名なる事。

由て十七日の議會にて常置委員を以て調査員とし調査せしむるとさなれり。

西京廢娼會　西京に於ては府會議長中村榮助、市會議員大澤善助の二氏發起となり、廢娼會を起し同志社敎師醫學士グリーン氏も大に加擔して連りに廢娼事件の調査を爲し居らる。

島田三郎氏　は過日福島地方有志者の招に應じて福島に至り廢娼演說を爲したり

神戸大坂　に於ては植木枝盛、根本正、宮川經輝の諸氏所々に廢娼大演說會を開かる。

○女　報

○赤十字社　日本赤十字社にて今度の海陸軍大演習に付き戰鬪地域內に出張所を設置し醫員及び看護婦人を送りて假裝負傷者に就き實地看護の演習を試むる由にて目下準備中なりと云ふ。

○婦人大演說　去る十六日麴町區飯田町なる富士見樓に於て川口露井、吉田梅子、岡濱子、大井幸子等の政談演說ありし由。

○普溜女學校　監督普溜氏記念の爲とて英國其他各國有志者の寄附に成れる大坂川口居留地の普溜女學校は新築落成せしを以て去る十日卒業式を兼れて盛大なる開校式をなせし由なるが當日來會せる內外の紳士淑女無慮數百名なりしと云ふ

○婦人奬勵會　大阪憲兵中尉寺田某の令閨が會主となり去る十九日同地北野村寶海寺に於て同隊婦人奬勵會を開き席上增田醫學士の夫人が衞生上の心得等を演說せられたる由。

○妙喜尼の言行　と題し暹羅の國に有名なる佛尼の言行二三を正教新聞に記載したり、

或人曰ふ「人若し汝に水を注がば怒らんか」答て曰「暴雨に逢ふとせんのみ何ぞ怒るとをせん」又問ふ「人若し汝を擲たば如何」曰く「又止た俄に瓦落ちしと思はんのみ我れ止た佛恩の報いがたきを憶とす何の暇あつてか他と爭はんや」と又或人走り來りて尼を衝き倒し氣息殆ど絕す已にして尼曰く「是も亦佛恩なり」と或る人曰く「斯の如き時何れにか佛恩ある」曰く「即死せざりしは佛恩ならずや」と又飯を炊ぐとき過て手を熱湯に燒くまた叫て曰く「佛恩なり」と或人詰りて曰く「苦痛に堪へず何ぞ佛恩と稱すべきや」尼答ていふ「我が苦痛も地獄の苦患に比せば如何我之を以て益々佛恩の大なるを知ると

○婦人衞生會　來月三日午后小石川植物園に於て同會の懇親會は開かれ諸名家及び賛成大家をも招待し盛んに親睦を催ふさるゝ由。

○アッケルマン孃　は昨日横濱に歸り同所にて再度演說し其后神戸西京に趣かるゝ答なり。

週　報

○官令　十四日勅令第二十五號にて海軍立職名等級表中削除の件同二十六號にて海軍造船工學校官制中改正の件同二十七號にて海軍造船工學校生徒に關する給與の件を裁可公布せらる●十七日法律第十七號にて作業會計法同十八號にて陸軍作業會計法同十九號にて鎭守府造船材料資金會計法同二十號にて官設鉄道會計法同二十一號にて中央備荒儲蓄金預金局預金郵便貯金預所貯金郵便爲替金特別會計を裁可公布せらる

○宮庭　十一日天皇陛下樞密院へ臨御●十四日聖上內閣に臨御し玉ふ

○政治　十一日內閣會議に各大臣參集せり同日樞密院に於ても會議を開けり●十日大藏省參事官河島醇氏依願免本官●十一日陸軍省に於ては臨時將校會議を開けり●十四日內閣會議に山縣、山田、松方、西鄕、大山、榎本、靑木、岩村の各大臣登閣せり

○外交　十一日清國公使は露、獨、佛の三公使を訪問せり●十二日獨乙公使は內外の貴顯を招きて饗宴を開けり

○銀行　十日正金銀行株主總會を開き役員の改撰を爲せり

○會社　十二日帝國物產會社は解社の旨を屆け出たり

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

東洋英和女學校廣告欄

本校の學期は豫科三箇年本科四箇年にして別に二箇年に涉る高等科の設あり入學生は寄宿生百三十五名通學生百名を限とす每科受持の教員孰れも熟達善良あり然して本校の教授は實に完全なりとの世評を獲んとは本校の希圖する所あり規則書等御入用の御方は校長宛に御照會を乞ふ

麻布區鳥居坂十四番地

東洋英和女學校

廣告

本誌三號の講壇には平岩恒保、ナックス兩氏の說教理學士木村駿吉氏の演說あり文壇には星野光多文學士大西祝其他に諸氏の論文あり

三月廿五日第四號發行

壹貳兩號最早悉皆出切

◎講壇には諸名家の最も適切有益なる說教○

◎文壇には宗教に關する論說及聖書の文學○

◎爐邊には信徒の生活眞正の家庭及經驗談○

十六頁にて小冊子躰のものなる本誌附錄

小教師

は翌月中每安息日の爲簡單親切に說教す

基督教文學の雜誌

標準

每月二十五日發行

發行所 東京本郷區西片町十番地ほ十號 標準社

◎書篇には各地傳道上の運動及教會の實況○

◎定價前金一冊六錢六冊三十三錢無遞送料○

◎廣告料一行四錢何行何回あるも割引せず○

見本及注文は三號より

見本は郵券六錢但五厘切手

●正教新報

三月十五日發行第二百廿三號○一冊郵稅共金四錢五厘

論說 文部大臣の演說を讀む○宗教と學問の區別を明かにすべし●特別寄書○基督教徒の當さに使用すべき利器●寄書○基督教信者の參考○現世の患難を賀し併せて來世天國の實在を證す **雜錄** 當今の唯物論○道德は人に遠からず●詞叢●文苑○舊約百詠○神恩照來東海濱といふ心をよめる●漫筆○ゆにてりあん第壹號を讀む **雜報** ●日本正教會記事○數件●彙報○妙喜尼の言行○全國教育者の大集會○佛者政談大演說會再度の不認可○文身の再燃○全國佛教者大懇話會●近刊雜誌

發行所 東京市神田區駿河臺北甲賀町十三番地 愛々社

生徒募集

本校定期試驗畢る寄宿通學とも入學を許す

小石川柳町廿七番地

私立 跡見女學校

通信女學 **講義錄** 第三卷

三月十五日出版

價金三十二錢 全國一般無郵稅

東京麴町區富士見町二丁目一番地 女學雜誌社

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

遞信省認可

德富猪一郎氏序
嚴本善治氏序

定價金八錢　郵稅金四錢

廢娼論壇先登第一

上毛青年の初陣 全一冊

上等用紙百六十餘頁

目次

公娼の害を論ず……………………島田三郎
非賣淫公許論……………………
建議書大意……………………
廢娼運動機况……………………
群馬縣貸座敷營業資產調書……………………
群馬縣會議事錄……………………
收支決算報告……………………

右は**上毛青年聯會員**が其社會的運動の第一着に眞理の點火者と爲り正義の先鋒者となりて廢娼の與論を提起し竟に上毛の野に一勝を收め得たる凱歌の第一聲なり若し篇中載する所の娼妓に關する精密なる統計表群馬縣會の議事聯合會員が各地に奔走して演說談論せし實況等を一讀し去らば其焰々燃ゆるが如き熱心と切々刺すが如き至情との躍若として其れが紙面を横溢するを見るべく一勝の微功も亦以て偶然にあらざるを知るに足らん今や印刷既に成り廣く江湖に發賣せんとす請ふ陸續購讀せられんことを

但各青年會廢娼會禁酒會矯風會不邪淫會婦人會其他廢娼を贊成する所の會合にして其會の印章ある書面に郵稅四錢を添へ申込まるゝに於ては**無代價**にて進呈すべし

發行所　上毛東群馬郡前橋町　**上毛青年社**

基督教新聞

第三百四十六號（三月十四日發行）より**改良**二葉八頁の紙面に毎號二頁の附錄を添へて定價金二錢半年前金五十錢一年同一圓に引下げ、德富猪一郎氏の時事評論、今度歐米漫遊より歸朝されたる横井時雄氏の漫遊瑣筆を毎號掲載し、家庭の一欄は田村直臣氏之を擔當せられ、又安息日學課の一欄を設け此他一躰に記事を精選し改良を行へり

六合雜誌

第百拾一號　三月十七日發行

目次○英國に於る基督敎の勢力（文學士某）○智識と信仰（大島正健）○故新島先生の品性（小崎弘道）○パンエシドス（高橋五郎）○獨國學風論（爇川漁夫）○聖書のインスピレーションに關する論說書翰（カクラン君、松山高吉君、デビス君、杉山重義君、イビー君、平岩愃保君、大西祝君、奥野昌綱君、綱島佳吉君）○雜記○ゆにてりやんの發行○博士ライトフート氏等○一冊價金八錢半年前金四十三錢一年八十錢全國無遞送料

發行所　東京々橋區出雲町一番地　**警醒社**

發行所　東京麹町區富士見町二丁目一番地　**女學雜誌社**

編輯兼發行人　東京麹町區富士見町二丁目一番地寄留　嚴本善治

印刷人　東京神田區三崎町壹丁目十三番地寄留　森田豐

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

徳富猪一郎氏序
巖本善治氏序

定價金八錢　郵税金四錢

廢娼論壇先登第一

上毛青年の初陣　全一冊

上等用紙百六十餘頁

目次

公娼の害を論ず……島田三郎
非賣淫公許論……
建議書大意……
廢娼運動機況……
群馬縣貸座敷營業資産調書……
群馬縣會議事録……
收支決算報告……

右は**上毛青年聯合會員**が其社會的運動の第一着に眞理の點火者と爲り正義の先鋒者となりて廢娼の輿論を提起し竟に上毛の野に一勝を収め得たる凱歌の第一聲なり若し篇中載する所の娼妓に關する精密なる統計表群馬縣會の議事聯合會員が各地に奔走して演説談論せし實況等を一讀し去らば其焔々燃ゆるが如き熱心と切々刺すが如き至情との躍若として其れが紙面を横溢するを見るべく一勝の微功も亦以て偶然にあらざるを知るに足らん今や印刷既に成り廣く江湖に發賣せんとす請ふ陸續購讀せられんことを

但各青年會廢娼會禁酒會矯風會不邪淫會婦人會其他廢娼を賛成する所の會合にして其會の印章ある書面に郵税四錢を添へ申込まるゝに於ては**無代價**にて進呈すべし

發行所　上毛東群馬郡前橋町　**上毛青年社**

基督教新聞

第三百四十六號（三月十四日發行）より**改良**二葉八頁の紙面に每號二頁の附録を添へて定價金二錢半年前金五十錢一年同一圓に引下げ、徳富猪一郎氏の時事評論、今度歐米漫遊より歸朝されたる横井時雄氏の漫遊隨筆を每號掲載し、家庭の一欄は田村直臣氏之を擔當せられ、又安息日學課の一欄を設け此他一躰に記事を精選し改良を行へり

六合雜誌

第百拾一號　三月十七日發行

目次○英國に於る基督教の勢力（文學士某）○智識と信仰（大島正健）○故新島先生の品性（小崎弘道）○パシエシドス（高橋五郎）○獨國學風論（藝川漁夫）○聖書のインスピレーションに關する論説書翰（カクラン君、松山高吉君、デビス君、杉山重義君、イビー君、平岩愃保君、大西祝君、奥野昌綱君、綱島佳吉君）○雑記○ゆにてりやんの發行○博士ライトフート氏等○一冊價金八錢半年前金四十三錢一年八十錢全國無遞送料

發行所　東京々橋區出雲町一番地　**警醒社**

東京麹町區富士見町二丁目一番地
發行所　**女學雜誌社**

編輯兼發行人　東京麹町區富士見町二丁目一番地寄留　巖本善治
印刷人　東京神田區三崎町壹丁目十三番地寄留　森田豊

遞信省認可